

奈良県版就学前教育プログラム

平成30年2月
奈良県

○奈良県の教育課題との関連

本県における就学前教育の充実に対する認識の前提には、学齢期におけるデータの指標として国が毎年小中学生を対象に実施している「全国学力・学習状況調査」及び「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、意識に関わる「学習意欲」・「規範意識」・「自尊感情」に関する項目及び「体力」に関わる項目の本県平均値が、全国平均に比して低いというデータが示されていることがあります。

これら4項目の意識・能力の醸成と向上を本県の子どもに係る教育課題ととらえ、その解決に向けた取組として、就学前教育の充実が必要と考えました。

このことを踏まえ、平成28年3月に策定した「奈良県教育振興大綱」において、乳幼児の心身の発育・発達を促すための適切な遊び・運動・しつけについて、専門的観点から効果的な手法を検討し、「就学前教育プログラム」として実施する、と位置付けています。

子どもが将来、これらの意識・能力の醸成・向上につなげられるよう、幼児期における効果的な取組を検討し、現場での実践例を中心として、海外事例の考え方を援用した研究成果を取り入れながら、本県の教育課題に即したプログラムとして整理しました。

【参考】

課題	学習意欲		規範意識		自尊感情		体力	
	関連項目に肯定的に回答する児童生徒の割合		関連項目に肯定的に回答する児童生徒の割合		自分には良いところがあると思うと回答する児童生徒の割合		体力合計点(女子)	
該当項目	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校	80.4%	80.9%	93.6%	94.0%	74.5%	76.3%	55.00点	55.54点
中学校	70.5%	73.1%	92.4%	93.7%	66.4%	69.3%	49.51点	49.56点

- ※1 学習意欲・規範意識・自尊感情の該当項目
全国学力・学習状況調査のアンケート項目から(H28)
- ※2 体力の該当項目 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(H28)



構成

経緯等		
教育・保育の質の向上		
日常の教育・保育活動		
学びの芽生え	健康な体をつくる	・本県の小中学生に関する教育課題と認識している「学習意欲」「規範意識」「自尊感情」「体力」という4つの意識・能力面の醸成・向上につながるよう、「幼児期において育てたい力」として4項目に整理
	生活をつくる力を育む	
	関わる力を養う	・実際に現場で行われている教育・保育の実践例や、ハイスコープ就学前教育カリキュラムの考え方を援用した実践研究モデル園での記録のうち、効果が分かりやすいものを選定し、これをもとにプログラムとして作成
	学びに向かう力の芽生え	
園外活動	・現場から収集した事例のうち、特徴的なもの ・環境設定、保育者と子どもとの関わりに主眼を置いた構成	
幼小接続の取組	・取組のステップを5段階で示し、できることをイメージしやすく整理 ・昨年度のモデル市町村の取組事例を提示	
保育者(教員)の資質向上		
効果的な研修事例	・子どもの理解 ・専門的指導力の向上	
実践成果の見える化	・子どもの理解に資する育ちの情報共有(保育者同士、保護者)	
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の概要	

教育課題と幼児期の取組

子どもが就学後に、「学習意欲の向上」、「規範意識の向上」、「自尊感情の醸成」、「体力の向上」が図られるよう、就学前の幼児期においてはどのような取組が効果的なのかについて、「学びの芽生え」として幼児期に育てたい力を4項目に整理します。

ただし、**1対1で事例が対応するわけではなく、総合的にそれぞれが相まって育ちにつながることを特に留意する必要があります。**

本県の教育課題

自覚的な学び

学習意欲の向上

規範意識の向上

自尊感情の醸成

体力の向上

就学後に課題を克服できる基礎を培う

本県が幼児期に育てたい力

学びの芽生え

健康な体をつくる

伸び伸びと遊びの中で十分に体を動かす

生活をつくる力を育む

生活に必要な技能を身に付け、生かす力

関わる力を養う

ひと・もの・ことと関わる力

学びに向かう力の芽生え

好奇心をもち、主体的に取り組む力

本県の教育課題に即した、幼児期において育てたい資質・能力

奈良県教育振興大綱「目指す人間像」

自他を尊び、地域を尊ぶ人

確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身を備えた人

自立し、主体性をもって行動し、協働して地域・社会に参画する人

幼稚園教育要領等

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

教育項目(領域)

健康

自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う

人間関係

自立心を育て、人と関わる力を養う

環境

周囲の環境に好奇心や探究心をもち、生活に取り入れていこうとする力を養う

言葉

・経験・考えを自分の言葉で表現
・相手の話を聞こうとする意欲・態度を育てる
・言葉への感覚・言葉の表現力を養う

表現

・感じたこと・考えたことを自分なりに表現
・豊かな感性・表現力を養い、創造性を豊かにする

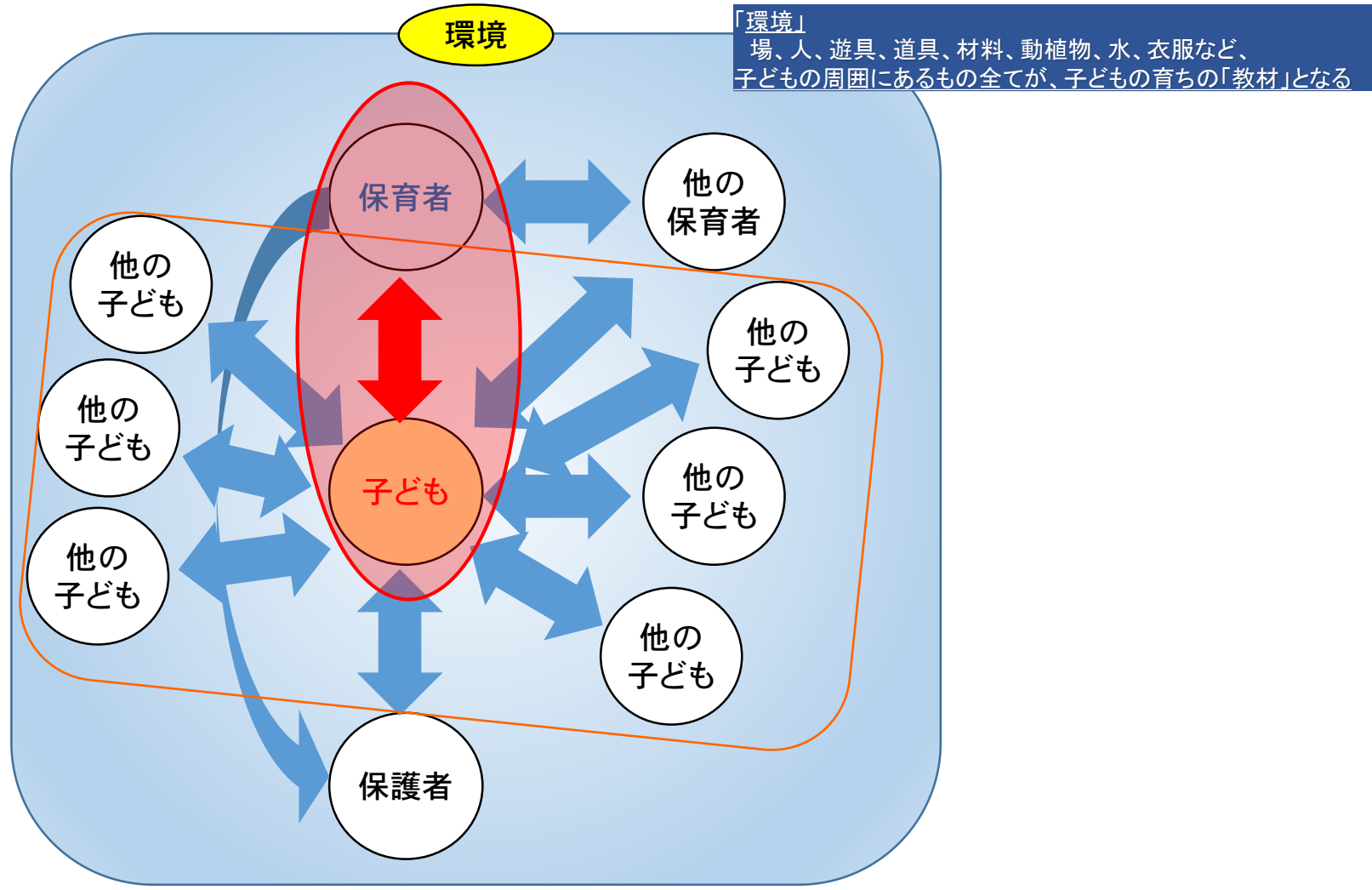
○子どもとの関わり

下の図は、一人の子どもを中心に、周りで関わる人の相関図です。(就学前教育研究調査事業の京都大学報告掲載のイメージ図から)

子どもの発育・発達は、子ども同士の関わりを主としながら多くの人が関わり、周囲にある物や場といった、置かれた環境全てが常に影響しながら途切れることなく経過していくのが本来ですが、このプログラムでは、主に環境を通じた園児と保育者(教員)との1対1の関わりを中心に置いた視点で、子どもの成長や変化を捉えてみようとしています。

子どもの活動に対する見守り・援助としての、保育者(教員)から子どもへの声かけを中心に、環境づくり、子ども同士の関わりや家庭・地域での関わりも含めながら、場面提示で掲載しています。

構成は声かけが中心なので、教育現場に限らず、家庭においても保護者が実践できる内容となっています。



○プログラムについて

現場で実際に見られた例から、方向性にあった効果が分かりやすいと思われるものを選定し、これらをもとにプログラムに構成しました。

現場での取組

- ・収集した事例から、効果的と考えられる取組、特徴的と考えられる取組

海外事例（米国・ハイスコープ就学前教育カリキュラム）を参考にした取組

- ・子どもの発達指標の例をもとに、現場で保育者(教員)と子どもとのやりとりを記録し、子どもの心情・意欲・態度の変化を観察
- ・実践した結果、効果的と考えられる取組

主なねらいに該当するものに分類

日常の教育・保育活動

幼児期に育てたい力 「学びの芽生え」

健康な体をつくる

伸び伸びと遊びの中で十分に体を動かす

生活をつくる力を育む

生活に必要な技能を身に付け、生かす力

関わる力を養う

ひと・もの・ことと関わる力

学びに向かう力の芽生え

好奇心をもち、主体的に取り組む力

留意点

- ・子どもの活動は次から次へと連続しているものであり、あくまでも一場面を切り取ったものであること
- ・1つの活動には様々な要素が相まっていること
- ・取組に対する効果は徐々に現れてくるものであって、即時性を期待するものではないこと

園外活動

- ・特徴のある取組

幼小接続

- ・市町村で取り組んでいる事例

保育者（教員）の資質向上

効果的な研修事例

- ・効果的と考えられる取組、特徴のある取組

実践成果の見える化

- ・効果的と考えられる取組、特徴のある取組

【参考】ハイスコープ就学前教育カリキュラムによる指導法

平成27年度からの京都大学との連携による就学前教育研究調査事業の取組成果として、アメリカのハイスコープ就学前教育カリキュラムの研究から得られた知見に基づいて、京都大学の研究チームが「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」「体力」の4点に該当する指導方法を同カリキュラムから抜粋・編集し、とりまとめた概要を、以下に参考提示します。

○共通する指導指針

保育者は、子どもの主体的な活動、自主性の発達を支援するための足場づくり(環境づくり)をする存在

- ①日々の遊びは、子どもが主体。子どもの興味関心にしたがい、「計画→実行→評価→振り返り」のサイクルを取り入れ、子どもの主体的な学びの能力を養っていく。
- ②日常の活動の中に、保育者主導、子ども主導、大人数グループ活動、少人数グループ活動の時間を取り入れる。
- ③保育者による一方的な「教えこみ」ではなく、保育者と子どもを対等な関係として位置づけた相互交流が求められる。
- ④学習スペースとして、「家庭エリア」・「芸術エリア」・「ブロック遊びエリア」・「小さなおもちゃエリア」・「コンピューターエリア」・「読み書きエリア」を区分して用意し、活動目標ごとに利用。
- ⑤子どもの様子を的確に把握し、状況に応じた働きかけをするように努める。
- ⑥子どもに自らの行為の意味や価値を認識させるため、適切に話しかけ、子どもの行為についてコメントする。
- ⑦子どもの発達により、もう一段階先に進めそうなときには、適切なタイミングで新たな課題を提示する。「教え込み」ではなく「さりげなく」

◇「社会的・感情的な発達」を支えるための原則

- ①支援的な雰囲気¹のクラス環境を作り上げる
- ②園から家庭への移行を手助け
- ③対人交流を円滑化するために、教室の備品やその配置を整理
- ④日々のスケジュールを子どもが理解し、安全に生活できるようにルーティン化
- ⑤「モデリング」「コーチング」「機会の提供」を通じて、様々な能力を伸ばしていく

○「自尊感情」の指導法

- ①子どもの能力と発達レベルに合わせて、自助スキルの向上を促進
- ②子どもが次の段階に進めそうな時は、乗り越えられる次のレベルを提示
- ③子どもの主体的な選択と実行をサポート
- ④子どもの努力と成し遂げたことを認識させる
- ⑤子どもにリーダーになる機会を与える

○「規範意識」の指導法

- ①保育者自らが、道徳的な行動モデルとなる
- ②道徳的な問題をシンプルな結果と原因に結びつけて状況を説明
- ③子どもに道徳的な行動を気づかせる
- ④家庭と幼稚園(こども園・保育所)との間に一貫性を持たせるために、保護者を巻き込む

○「学習意欲」の指導法

- ①出来たことではなく努力に着目する
- ②子どもが新しいことに挑戦した時に肯定する
- ③子どもが不安なく活動するために、学習環境が安全であると知らせること
- ④教員主導の活動時にも子どもの自主性を奨励する
- ⑤日常の時間において、計画を立てる時間をいつも設定する
- ⑥一日の活動全体を通して子どもが意図的な選択できる機会をつくる
- ⑦子どもの選択や決定に保育者が興味を示す

○運動技能を育てるための3つの基本

①運動スキルの発達のための環境を与える

- ・粗大運動技能(走る・跳ぶなど、姿勢と移動運動に関する技能)
子どもに広くて自由に動ける場所を提供
部屋は基本的に障害物がないように保つ
部屋の外でも自由に遊ばせてあげる
- ・微細運動技能(絵を描く、器具を用いるなど、小さな筋肉の調整による運動技能)
静かで安全なスペースが必要

②運動スキルを用いて、遊具・道具などを操作して活動する

子どもが使いやすい遊具や道具などは、運動技能の発達に不可欠。
そうした遊具・道具などが多様かつ豊富にあることで、子どもは選択が可能になり、順番待ちもなくなる。

③1日の様々な時間を利用して、運動スキルを用いる

集団遊びや外遊びの時間だけでなく、あいさつの時間や移動時間、掃除の時間などの定期的な場面でも子どもたちが身体を使い健康的な活動に取り組むよう指導する。
また、保護者ともコミュニケーションをとり、日頃の運動状況を把握しておく。

この項では、教育・保育の現場でのエピソードを場面で切り取って 子どもと保育者(教員)との関わりに主眼を置き、子どものある行動に対する保育者(教員)の援助・声かけを考えるプログラムとしています。このページでは、プログラムの見方を説明します。

保育者(教員)の援助は、子どもの特性を理解するところから始まります。

各項目の内容

「幼児期に育てたい力」4項目の1つ

内容を示すタイトル

その時の環境として、場所や準備された物など

援助のきっかけとなった遊びのシーンを説明
(黄色枠内は子どもの年齢)

赤色枠内: 設定・内容を見て、まずは保育者自らの経験を思い出してもらう

黄色枠内: 援助の対象となる課題のポイント

○左側(水色枠内) 子どもの行動や言葉
○右側(薄桃枠内) それに対する保育者(教員)からの声かけ等の援助
※ワークシートとして活用できるよう、右側を空欄にしたものがある

一番下

○左側(薄い橙) 援助の結果見られた子どもの育ちの状態
○右側(濃い橙) 保育者(教員)のねらい

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
(幼稚園教育要領)の該当項目を参考表示

現場で実践する際に、発展的に研修もできるような課題を例示

★子どもの性別・年齢・特性(性格)や実践の時期(天候・季節)などが異なる場合を考えてみましょう

A. 生活をつくる力を育む

生活に必要な技能を身に付け、生かす力

【A1】自分で出来た(自由遊び・工作)

環境設定

保育室 空き箱、空き容器、紙、セロハンテープ、フェルトペンなど

内容

5歳児

工作をしている男の子の間で、剣作りが始まった。思うように作れない男児。

★こんな場面がありましたか? その時あなたはどのようにしましたか? まず思い出しましょう

子ども

紙の剣が思うように作れない

紙を細く巻いて剣を作りたいが、ゆるんでしまっと思うように作れないので教員に作成をお願いする

自分でやってみようとするが、うまくできない

次第にうまくできるようになり、最後はイメージどおりの物ができ上がる

自分でできたという達成感を味わうことで自信が付き、積極的に自分でしようとする物事が増える

保育者(教員)のサポート

「Sくんは手であおして押さえて持っているね」と、出来ない部分に自分で気づけるように、がんばって作ろうとしている友達の姿をさりげなく知らせる

緩まないように押さえながらセロテープを巻くなど、細く巻くコツを知らせたり手を添えたりして、自分で作らせる

できるようになりたい気持ちを受け止め、頑張りを褒めて周囲の友達にも知らせる

工夫する方法を自分で見つけさせ、達成感を持たせるような援助を考える

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	◎				○		○		○

考えてみましょう

- 飽きっぽい子、保育者に助けを言いだせない子など、特性の異なる子どもの場合、保育者の関わり方はどう変わりますか
- 他の子どもの関わりはどのようにか
- 遊びの発展によって環境はどう変わりますか

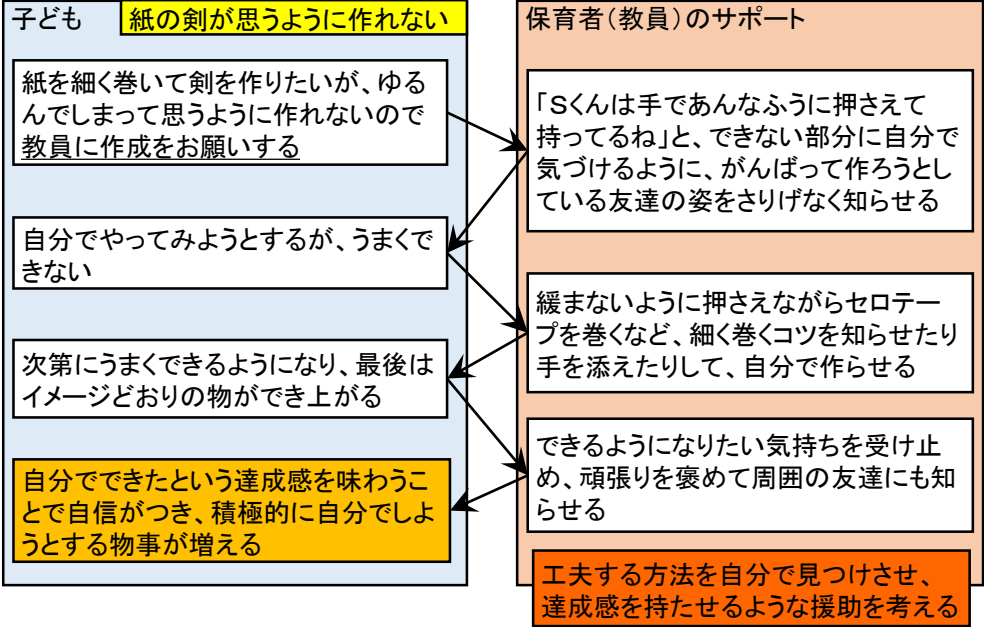
A. 生活をつくる力を育む 生活に必要な技能を身に付け、生かす力

【A1】 自分でできた(自由遊び・工作)

環境設定
保育室 空き箱、空き容器、紙、セロハンテープ、フェルトペンなど

内容 **5歳・男児**
工作をしている男の子の間に、剣作りが始まった。思うように作れない男児。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎					○		○		○

考えてみましょう

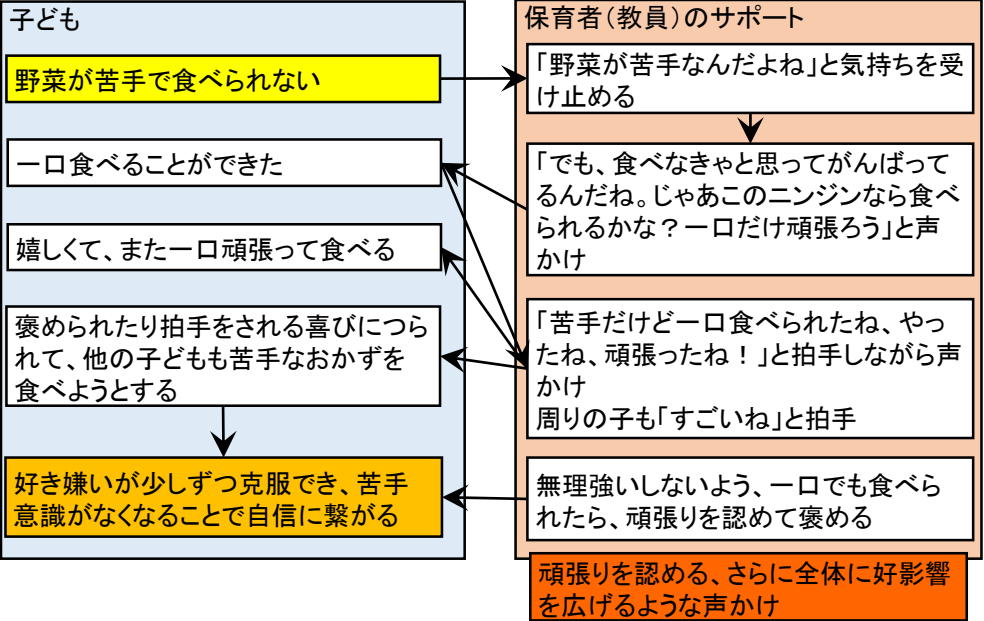
- 飽きっぽい子、保育者に助けを言いたせない子など、特性の異なる子どもの場合、保育者の関わり方はどう変わりますか
- 他の子どもの関わりはどのようにでしょうか
- 遊びの発展によって環境はどう変わりますか

【A2】 自力で苦手な食べ物を克服(励ましながら)

環境設定
給食の時間 数人がけのテーブルに友達の顔が見えるように着席させる

内容 **3歳児**
苦手な食材があって食べない子どもに対して、保育者が声をかけ、励ます。食べられたらクラスみんなで拍手をして褒める。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎					○			○	○

考えてみましょう

- 類似場面を実践した場合に、導いた結果はどう変わりましたか
- 苦手な食べ物を主張する園児にはどう関わっていますか？
- 4歳、5歳児の場合の関わり方も考えてみましょう
- 苦手な食べ物を克服したことを保護者にはどう伝えますか？

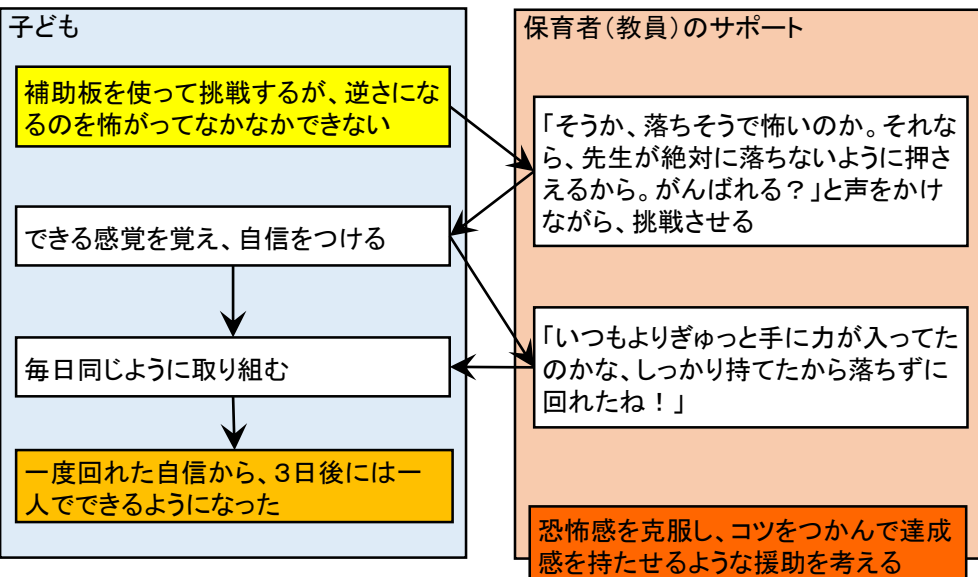
【A3】 できるだけ頑張る(鉄棒)

環境設定
園庭 鉄棒、補助板、保育者の補助

内容 5歳児

以前から鉄棒の逆上がりには挑戦しているが、逆さになると落ちてしまいそうで恐怖心がありうまくいかない。何とかできるようになりたいと練習を続けている。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎	○								

考えてみましょう

- この園児のがんばりをどのように認めると自信が付き、さらに次の目標に向かうようになるでしょうか
- この1人の園児の成功が、周りの園児の好影響をもたらすような工夫を考えてみましょう

ワーク 保育者(教員)の声かけ・援助を考えてみましょう

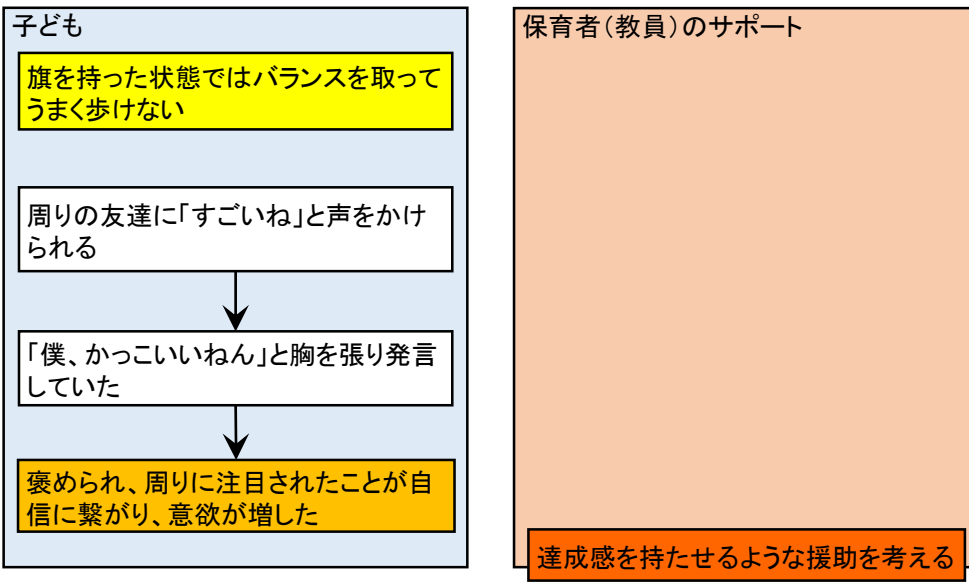
【A4】 できるだけ頑張る(運動会の練習)

環境設定
園庭 運動会の練習 園の旗

内容 4歳後半・男児

運動会の練習で、行進の時に園の旗を持つ役割を任された。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎	○								

考えてみましょう

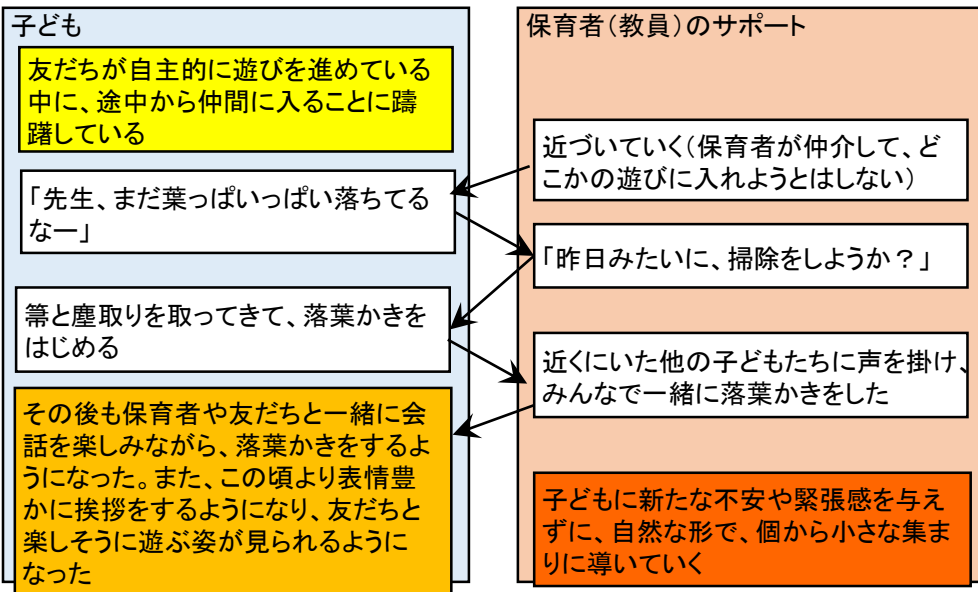
- 運動会の練習によって、子どもたちにどんな力を付けさせたいですか
- 類似場面で、子どもに自分が出来たことを認識させるためには、どのような言葉がけが有効でしょうか？

【A5】何をして遊ぼうか

環境設定
園庭 箒 塵取り

内容 **4歳児**
園庭での自由遊びの時間。遊びや友だちを見つけることができず、傍観している。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	◎	○	○	○				○	

考えてみましょう

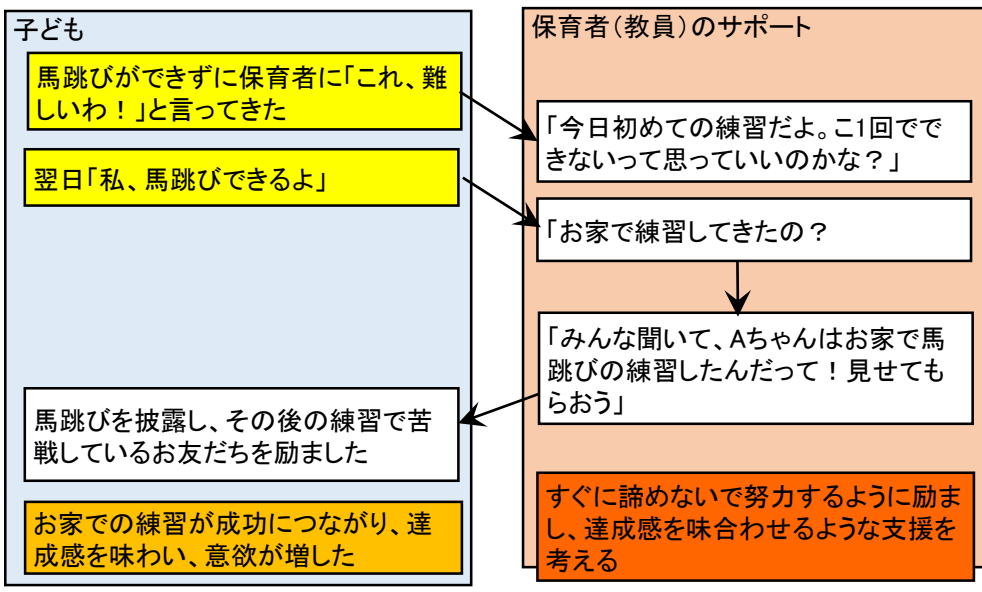
- 保育者が仲介して、子どもをどこかの遊びに入れるケースと、この事例とでは、子どもの成長にどのような違いが生じるでしょうか？
- 今まで経験した類似場面において、行った支援を出しあってみましょう

【A6】お家で練習してきた

環境設定
園庭 運動会の練習

内容 **4歳児**
運動会の練習で馬跳びに挑戦したが、うまくできず、諦めたような様子。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	◎	○	○						

考えてみましょう

- この事例のような成果をどのように保護者に伝えますか
- 出来た結果ではなく、その努力に着目して褒めることが重要ですが、どんな言葉がけが有効でしょうか？

B. 関わる力を養う ひと・もの・ことと関わる力

【B1】 ルールを理解する(順番を守る)

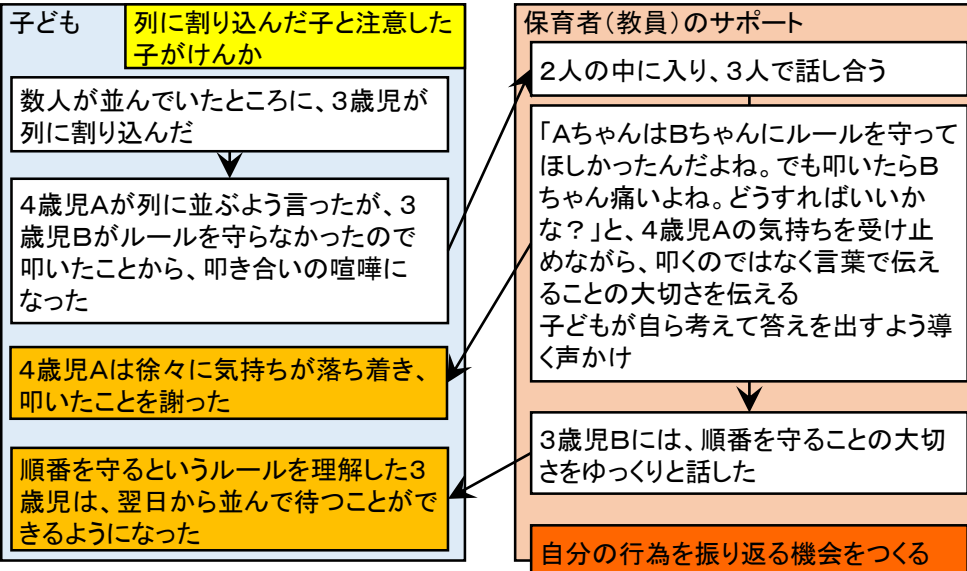
環境設定

園舎の手洗い場 横に一人用の机、コップを濯ぐためのボウル、拭くための布巾

内容 **3歳児と4歳児**

給食後、自分の使ったコップを濯ぐことにしている。数人が並んでいた順番待ちの列に割り込む子が・・

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
			○	○	○			◎	

考えてみましょう

- 異年齢同士ですが、同年齢同士では関わりがかわりますか
- 3歳児・4歳児が、それぞれ次の機会に言われたことが出来るようになり定着しそうですか

【B2】 順番・ルール(順番を代わる・物を整理する)

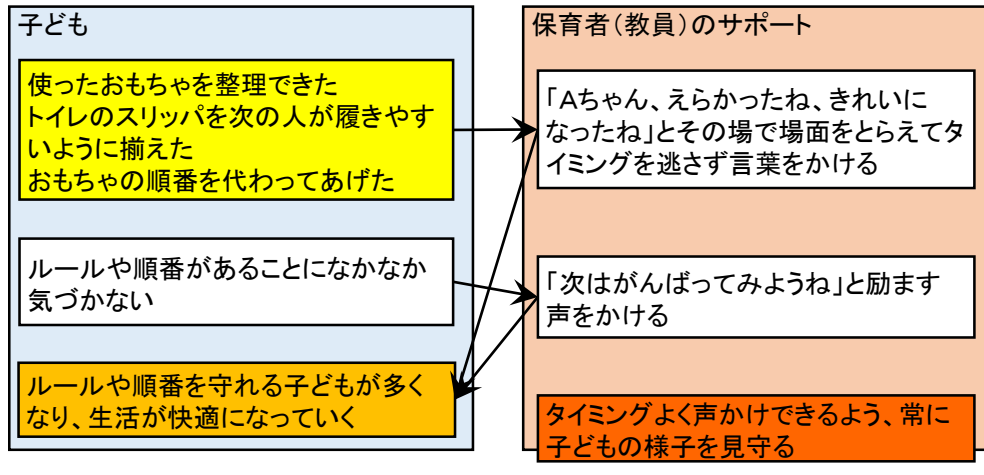
環境設定

保育室 トイレ 室内のおもちゃなど、トイレのスリッパ

内容 **3歳児**

集団生活を初めて体験する3歳児。今まで家庭では自分が一番で当たり前のことが多かったが、友達との集団生活を通じて、物事には順番があり、「かわりばんこ」などのルールがあることを経験しながら知っていく。おもちゃやトイレのスリッパなど、次の人が使いやすいように整理する、揃えておくことも気づかせていく。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
○	○		◎	○	○			○	○

考えてみましょう

- ルールを守る意識・行動を定着させるにはどうすればいいですか
- 4歳児や5歳児でルールを守れない子どもの場合、どう関わりますか

【B3】自分たちで話し合い、決めた遊びをする

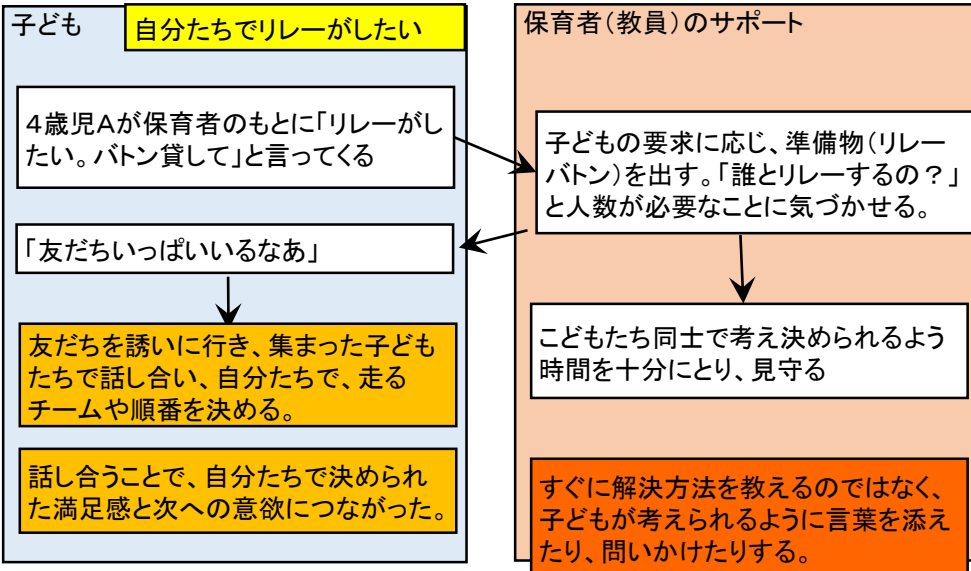
環境設定

園庭 走るコースの明示 リレーバトン

内容 4歳児

運動会の練習でリレーを経験する。その後の自由遊びの時に「リレー遊び」をしたいと保育者のもとにやってくる。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
○	○	◎		○				○	

考えてみましょう

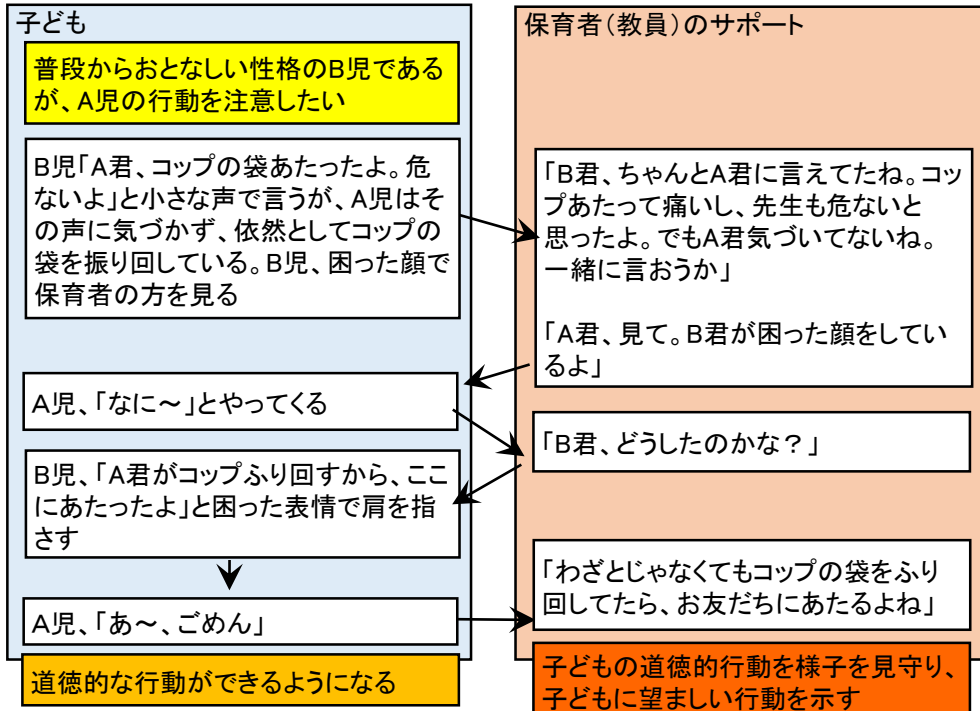
- 自分たちで決めた遊びをした子どもたちに、どんな言葉をかけますか
- このように子どもが考えた方法を取り入れて遊ぶ場面をつくるには、どのような環境を整えておく必要があるでしょうか

【B4】友だちに自分が正しいと思ったことを伝える

内容 4歳児

朝の身支度の場面。A児がコップの入った巾着袋を振り回し、歩き回っている。巾着袋がB児の肩にあたり、B児は困った顔でA児を見ている。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	○			◎				○	

考えてみましょう

- この事例はB児の成長にどのような影響を与えるでしょうか
- 日常の保育の中で道徳的な問題をシンプルな結果と原因を結び付けて説明した例をあげてみましょう

【B5】ルールを守る(子ども同士でトラブルを解決する体験)

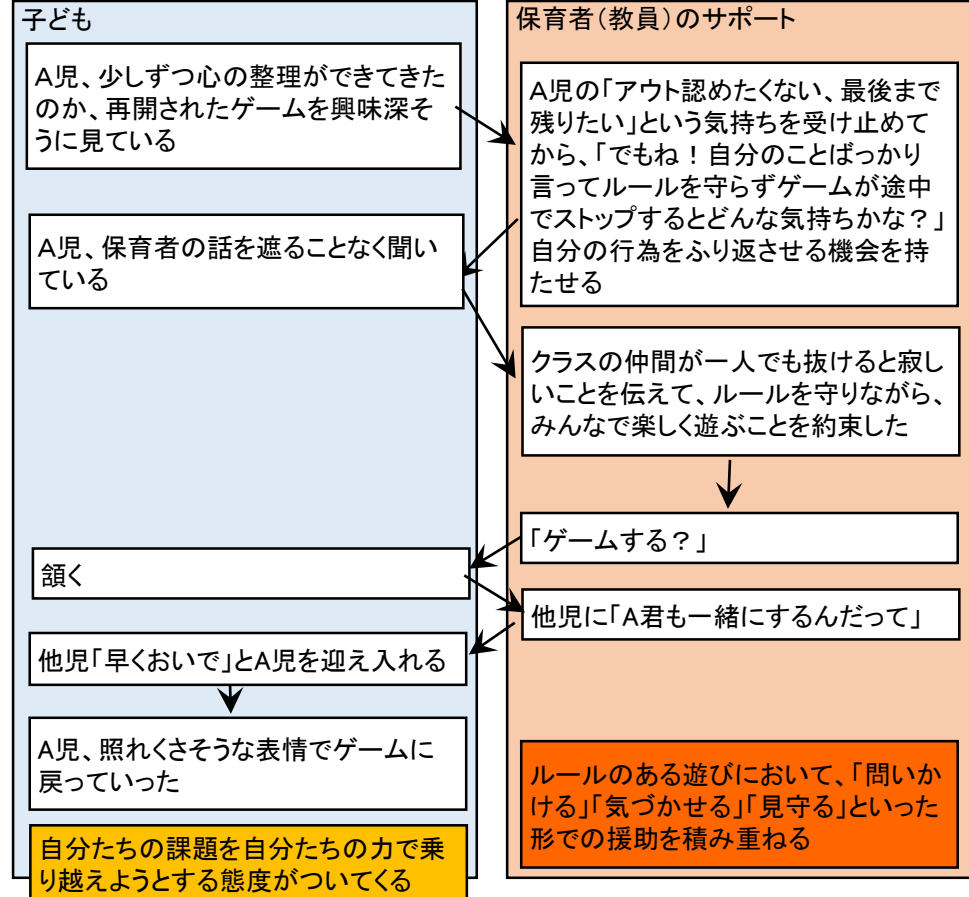
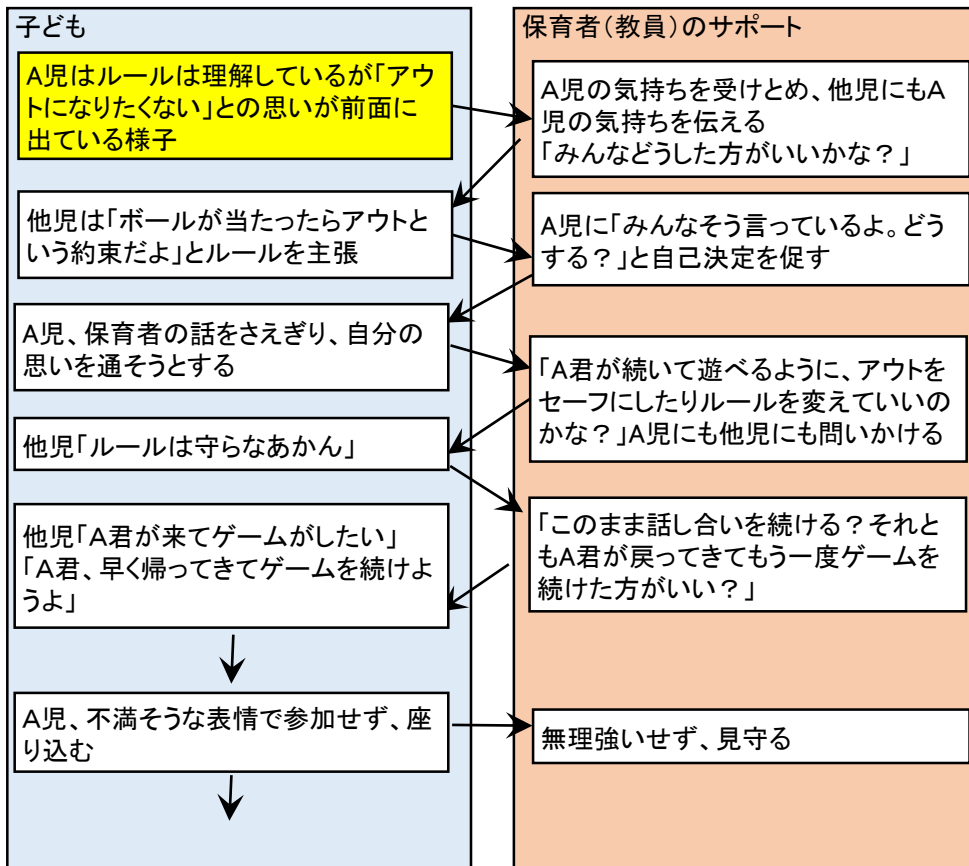
環境設定

園庭 ドッジボールコート ドッジボール

内容 5歳児

ドッジボールのルールを事前に確認して活動を進めていた。しかし、ボールにあたったA児が、「B君が傍にいてよけてくれへんかったから逃げる場所がなかった」と訴えてゲームが中断。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
○	○	○	◎	◎				○	

考えてみましょう

- この事例が起こった時、保育者はどのような教育的意図をもって、子どもに関わっていったのでしょうか？
- 保育者の各場面での支援が、どのような効果をもたらしていったのでしょうか？

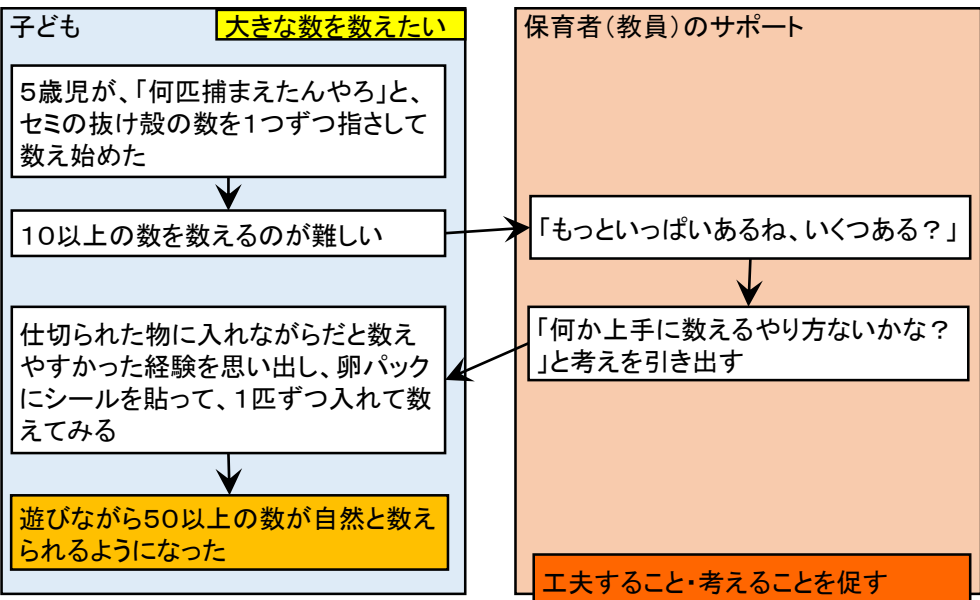
C. 学びに向かう力の芽生え 好奇心をもち、主体的に取り組む力

【C1】 数を数える(セミのぬけがら、いっぱい見つけたよ)

環境設定
園庭 虫取り網、虫かご、卵パック、シール、フェルトペン

内容 **5歳児**
子どもが見つめて集めていたセミの抜け殻を数え始める。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどのようにしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
		○			○	○	◎		

考えてみましょう

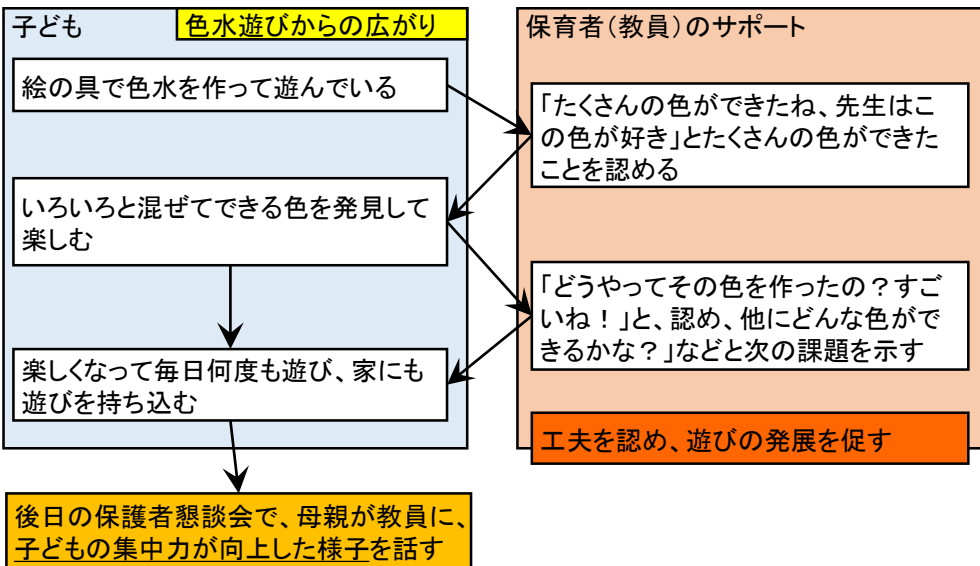
- 卵パック以外に、数を数えやすくするものは何がありますか
- 大きな数を数えられるようになったこの子どもは、どんな遊びを考えそうですか
- 数遊びは他にどんな例がありますか

【C2】 集中力が増した(色水遊びから)

環境設定
保育室 絵の具、水

内容 **4歳児**
絵の具で色水を作って遊んでいる女兒。いろいろな色ができることを認める。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどのようにしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
					○				◎

考えてみましょう

- この子どもの遊びが発展するためにはどのように援助しますか
- 他の子どもの関わりはどうですか
- 集中力が向上したことは、他の場面ではどう見立てますか

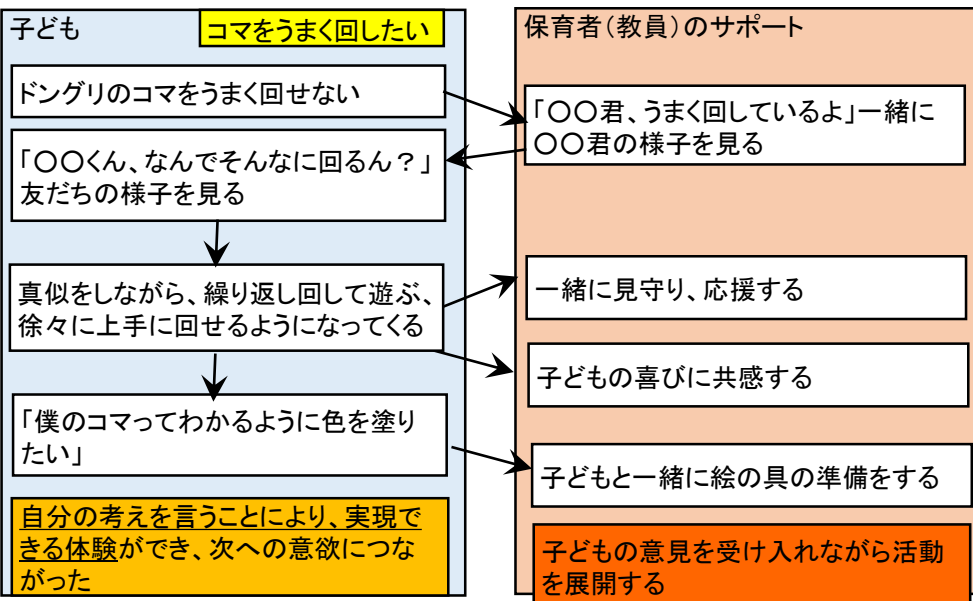
【C3】 ドングリのコマをまわす



環境設定
保育室 ドングリのコマ 絵の具 筆

内容 **4歳児**
ドングリのコマを回して遊んでいる。最初、うまく回せずに戸惑っている

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
○		○			○		◎		○

考えてみましょう

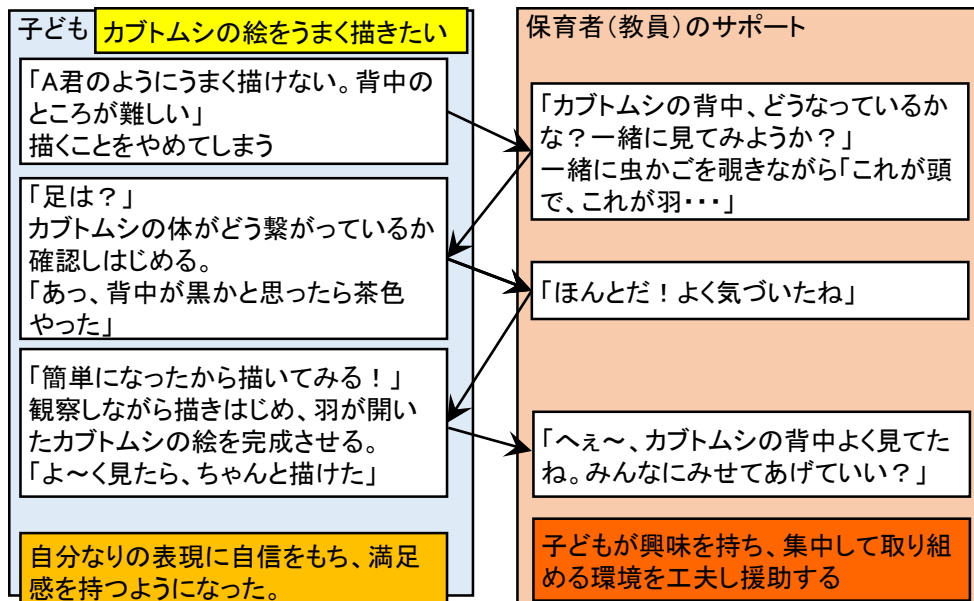
○子どもの意見を受けとめ、それが実現できる体験を繰り返し経験できるようにするには、保育者はどのような環境を準備すればよいのでしょうか
○この子どもは、今後困難にぶつかった時にどんな対応をするでしょうか

【C4】 カブトムシの絵を描く

環境設定
保育室 画用紙 クレパス カブトムシ

内容 **5歳児**
カブトムシの絵を描いていたが、うまく描けないので、投げ出してしまふ。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
					○	◎	○		○

考えてみましょう

○5歳児ぐらいになると、周りが気になって集中できない子どもや、恥ずかしい気持ちが芽生え「自信がない」と思ってしまう子どもがいます。このような子どもに対してどのような支援ができるでしょうか？

【C5】できるようにになりたいもん！

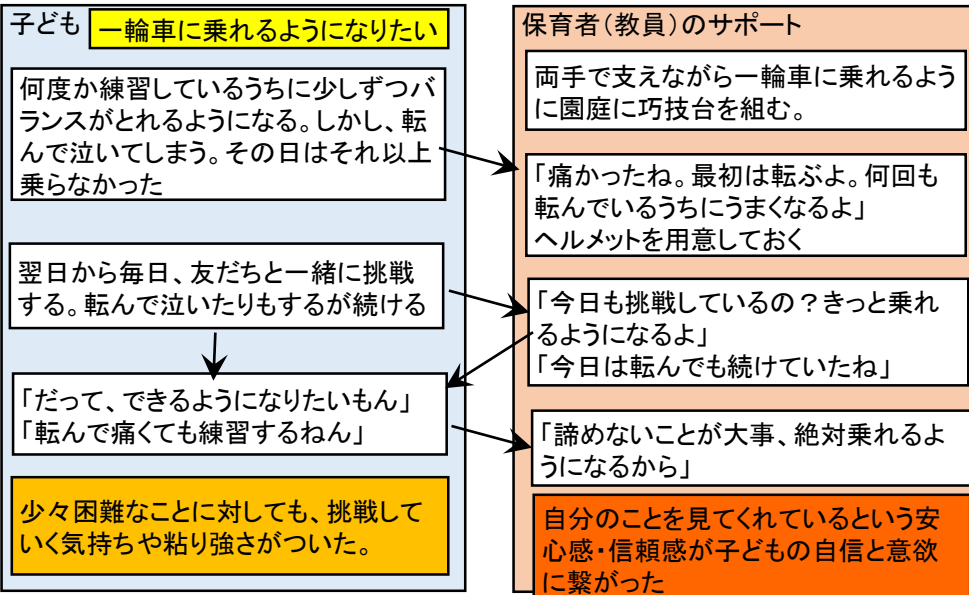
環境設定

園庭 一輪車 巧技台 ヘルメット（可能ならば肘や膝のプロテクター）

内容 5歳児

明るく活発であるが、できないことに尻込みしたり、すぐに諦めたりするA児。園庭で一輪車に乗る友だちを見て自分も挑戦しようとする。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
○	◎								○

考えてみましょう

- 類似場面でも子どもの意欲を高めるためにできる言葉がけを考えてみましょう
- この事例のようにケガをする危険を伴う活動をする時に、安全を確保するための施設・設備面の工夫を考えてみましょう

【C6】水と砂の爆発や

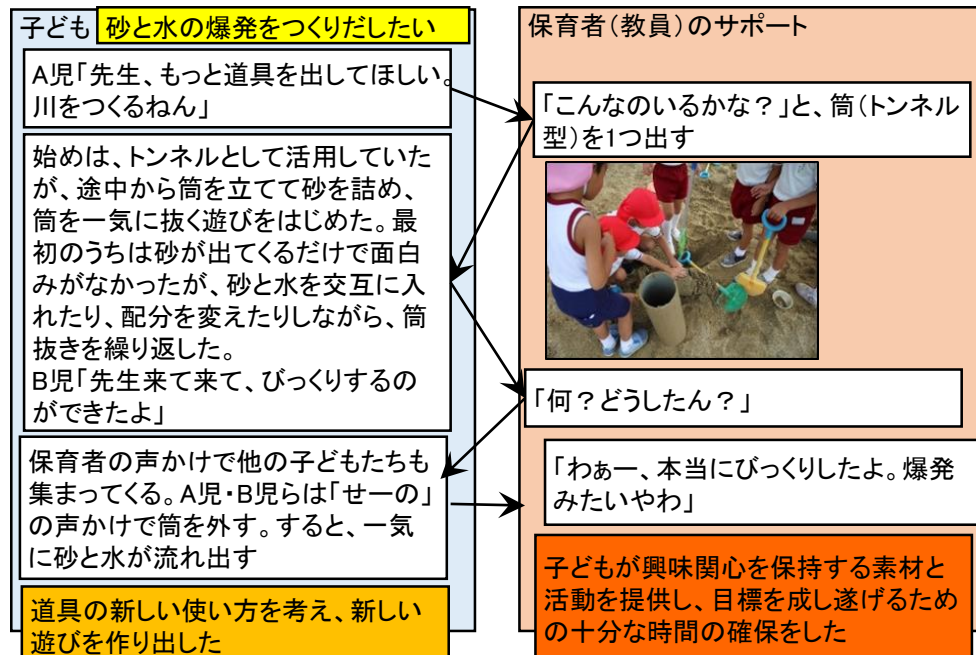
環境設定

砂場 スコップ 水 水を汲む容器 筒(竹製でもプラスチック製でも可能)

内容 5歳児

数人の子どもが砂場遊びの場面で水を流して川を作っている。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
		○			◎	○			○

考えてみましょう

- この事例の「ふり返り」の時間に、どのように進めるとさらに教育的効果は高まるでしょうか？
- 子どもと感動を共有できた経験を話しあってみましょう

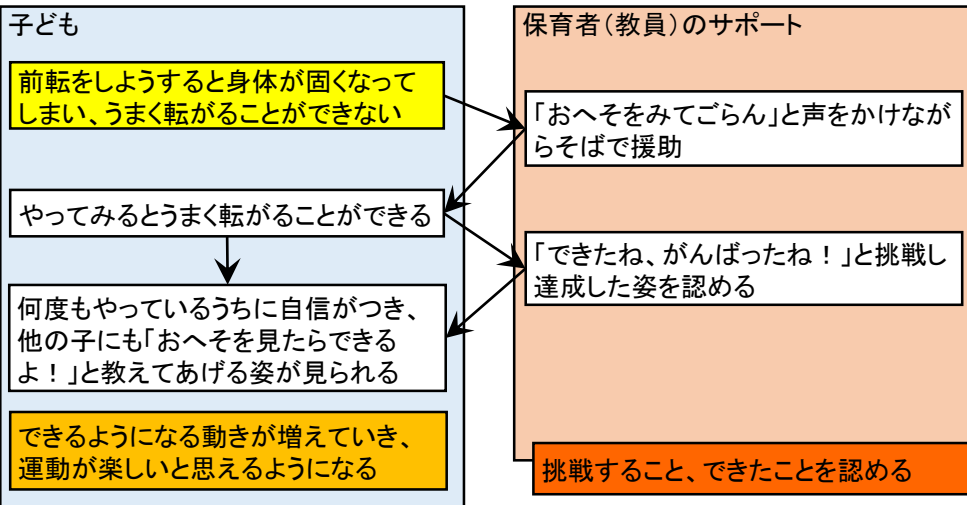
D. 健康な体をつくる 伸び伸びと遊びの中で十分に体を動かす

【D1】 身体を動かす(サーキット遊び)

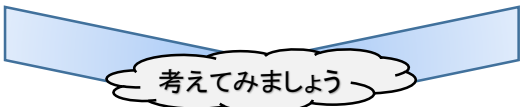
環境設定
遊戯室 マット・踏み板=前転、巧技台=ジャンプ、床に固定したフラフープ=けんけんぱー、ゲームBOX=トンネルくぐり

内容 **満3～5歳児**
跳ぶ、転がるなどの運動遊び。前転を怖がる子どもがいたので援助をする。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎	○	○			○			○	



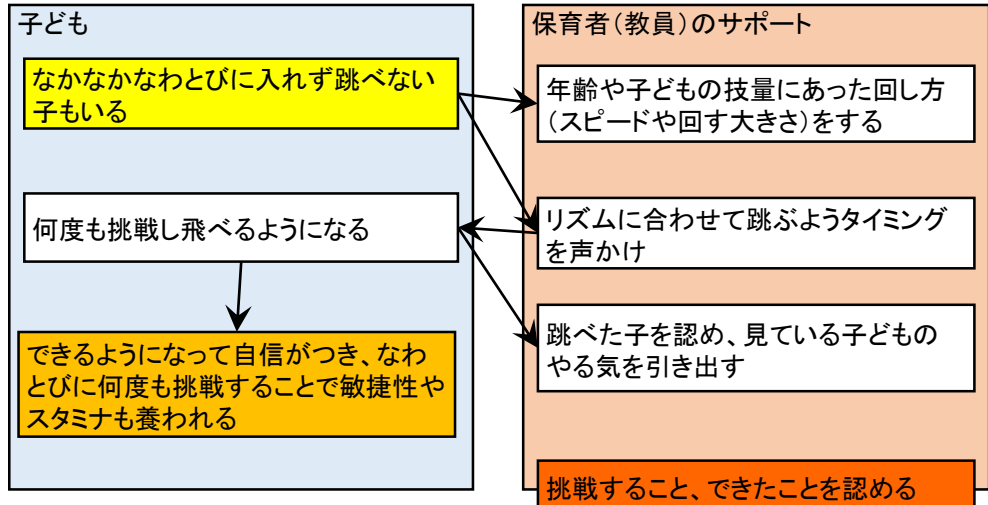
- 自分ならどう関わりますか
- ジャンプやけんけんぱーなど他の運動ではどう援助しますか
- 小さい子と大きい子で援助の仕方はどう変わりますか

【D2】 丈夫な体づくり(長なわとびを跳ぶ)

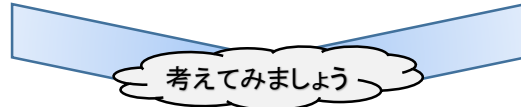
環境設定
園庭 長なわとびができるよう、広い空間を確保

内容 **3～5歳児**
保育者が回す長なわとびを跳ぶ。跳べない子は跳べる子の飛ぶ様子を見て何度も挑戦し、跳べるようになる。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎	○		○						



- 自分ならどう関わりますか
- 遊びがどう発展し、保育者(教員)はどう関わりますか
- 子どもの年齢や能力に応じた声かけ・援助を考えましょう

[D3] 木登りの力と勇気(高いところに登ることができるかな)

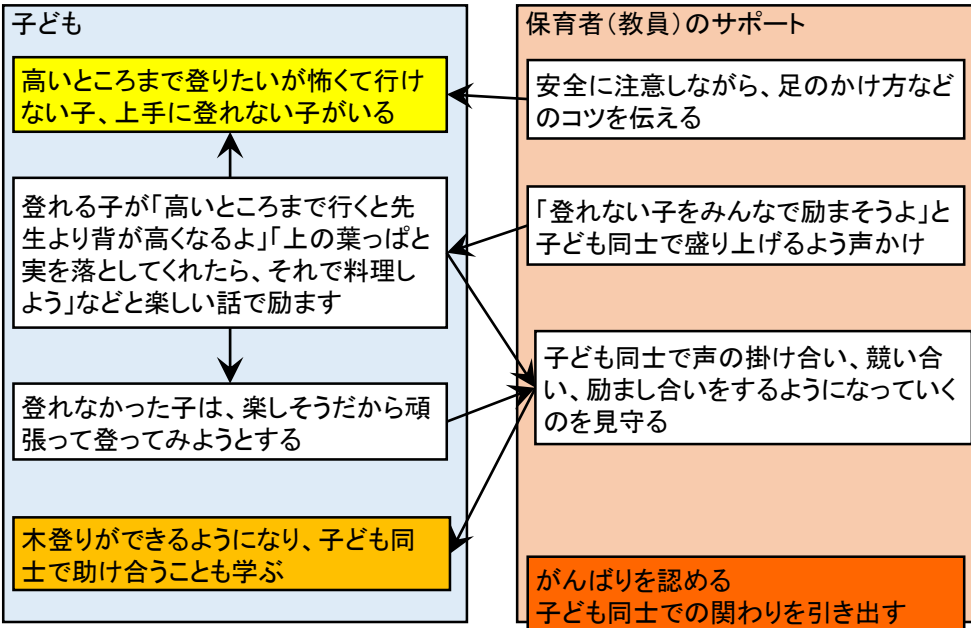
環境設定

園庭の木に木登り用の木を固定

内容 4～5歳児

固定してある木登りの木を使って大きな木に登ろうとする。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎	○	○			○			○	

考えてみましょう

- 自分ならどう関わりますか
- 登れた子へはどう関わりますか
- 木登りから遊びがどう発展するか想像してみましょう
- 安全を確保するために、設備面で配慮できることを考えましょう

ワーク 保育者(教員)の声かけ・援助を考えてみましょう

[D4] いろいろな体の動き(忍者や動物の歩き方を模倣)

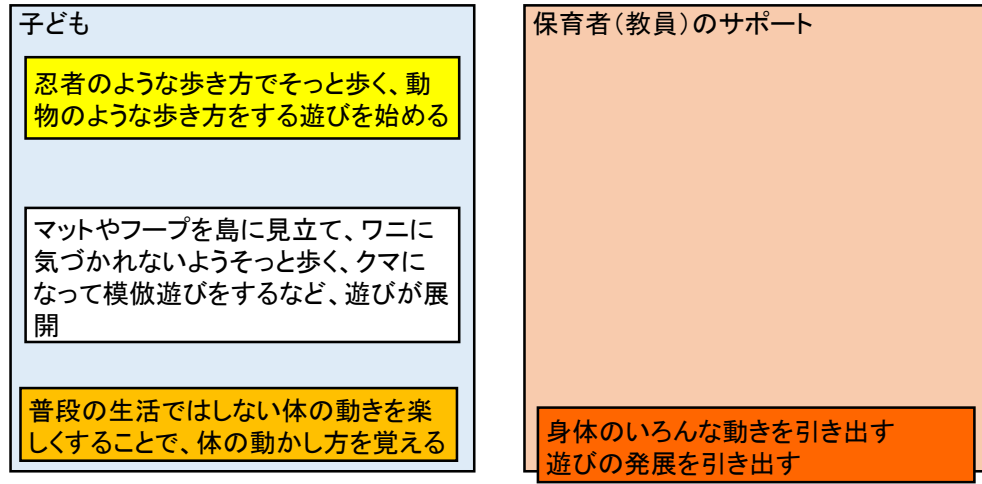
環境設定

遊戯室 マット、フープ、平均台を組み合わせて並べる

内容 3歳児

忍者になって、つま先歩きや両手をつけて腰を上げて歩いたりする。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎									○

考えてみましょう

- 忍者のような動きを覚えた子どもは、どんな遊びに発展させると考えられますか
- 安全面を中心にどんなことに配慮しますか
- 忍者ごっここの環境設定は、他にどんなことが考えられますか

園外活動（関わる力を養う）

幼児の生活は、家庭を中心に幼稚園・保育所・こども園、そこから地域社会へと、連続性を保ちつつ次第に広がりを持つことを踏まえ、地域の自然、高齢者や異年齢の子どもなどを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、園所以外の場から幼児が様々な体験を得られるよう工夫することも必要な要素です。

【E1】 地域の人々とのふれあい「お店屋さん見学」

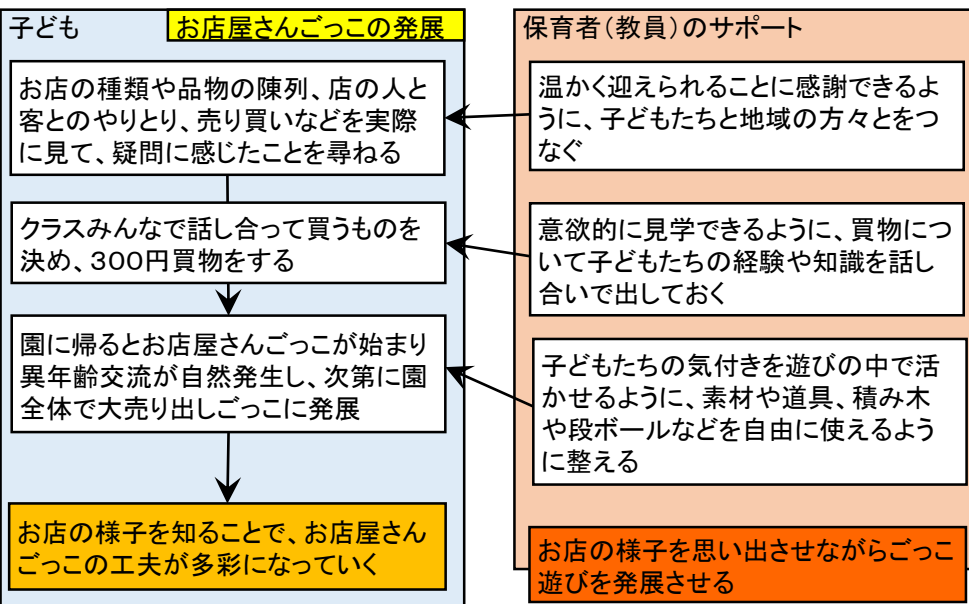
環境設定

地域の商店街、さらに園内にはお店屋さんごっこができる素材を用意

内容 **5歳児**

園バスで商店街へ出かけ、見学する。「売り買い」に興味を持つ。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
		○	○	◎	○		○	○	○

考えてみましょう

- 低年齢の子どもが対象ならどう設定するか、想像してみましょう
- 遊びの発展に応じて、保育者はどう関わりますか

【E2】 地域の人々とのふれあい「お料理活動の食材の買い出し」

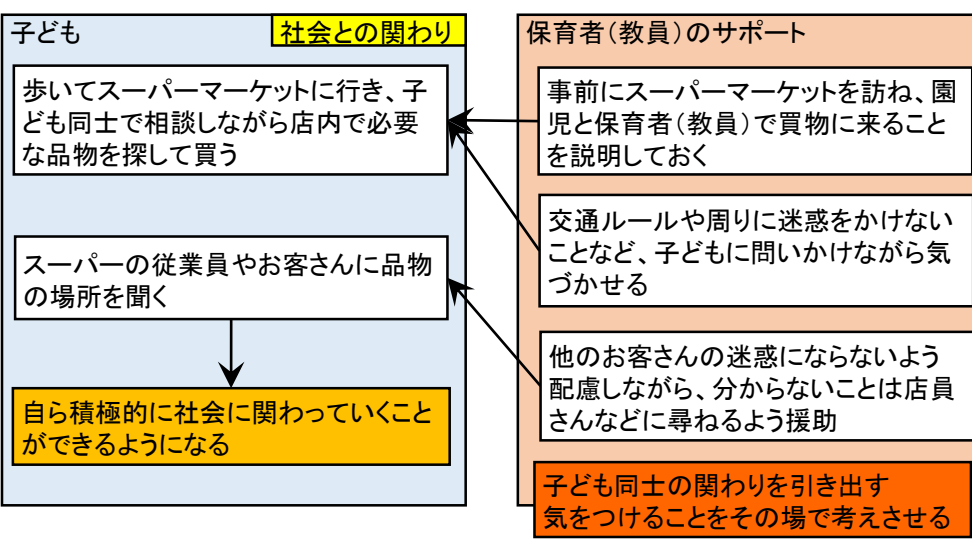
環境設定

近くのスーパーマーケット、買い出しリスト、財布(お金)、手提げ袋

内容 **5歳児**

近所のスーパーマーケットで園児が自分たちで相談しながら買物する。事前に、保育者(教員)と園児とで料理に必要な材料を話し合い、買物の時に品物を籠に入れる人、お金を払う人、袋に詰める人など分担を決めておく

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	○	○	○	◎	○		○	○	

考えてみましょう

- 体験から遊びの発展を想像してみましょう
- 体験の振り返りをしますか(お絵かきなど)

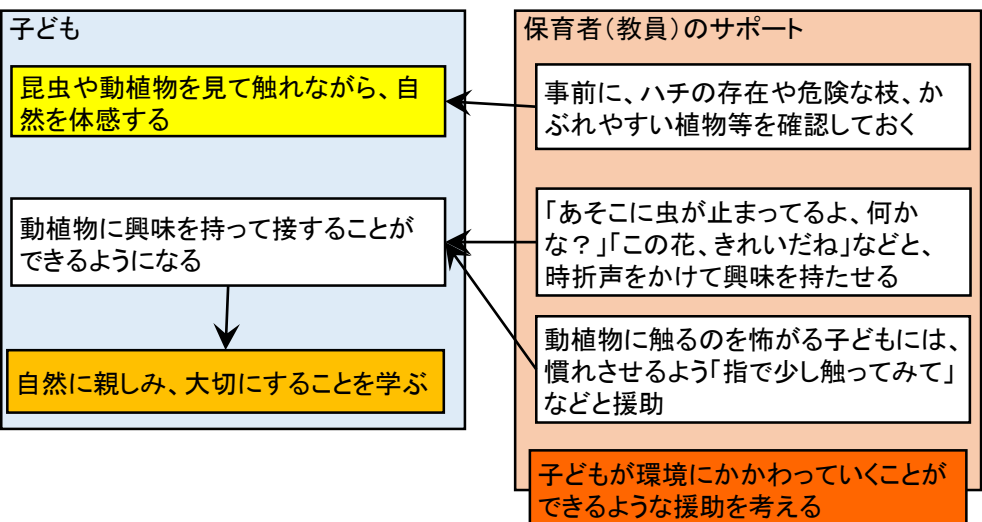
【E3】地域の自然を活用 「森の幼稚園」

環境設定
近くの国有林内

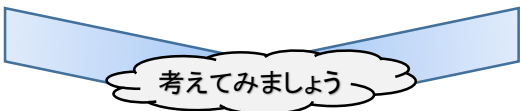
内容 **5歳児**

森林管理者・地元民間団体・幼稚園の3者協定により、幼稚園の近くの国有林を活用し、地元民間団体の企画協力を得て、森の中で散策やネイチャーゲームを実施。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
○		◎				◎	○		◎



- 自分ならどう関わりますか
- 3歳児や4歳児ならどう関わりますか
- 体験から遊びの発展を想像してみましょう

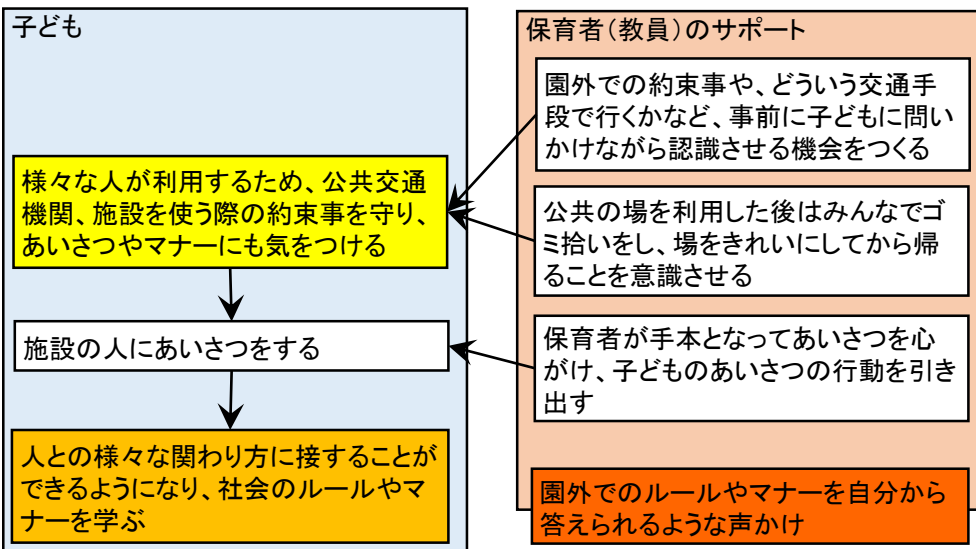
【E4】公共施設へ出かける

環境設定
公園・施設

内容 **5歳児**

園外の公園や施設へ出かけて遊んだり学んだりする。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	○		○	◎	○				

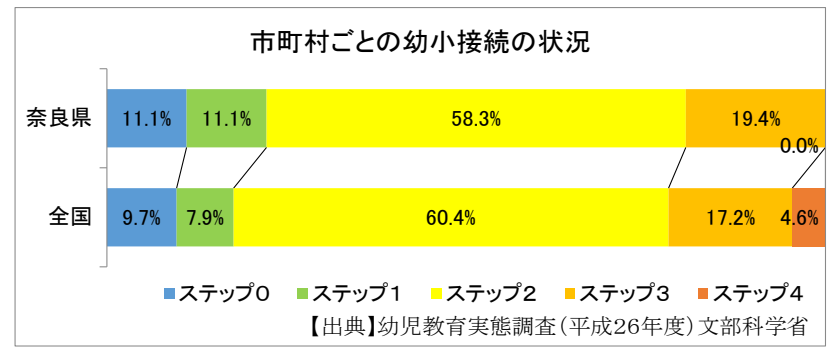


- 自分ならどう関わりますか
- 3歳児や4歳児ならどう関わりますか
- 体験から遊びの発展を想像してみましょう

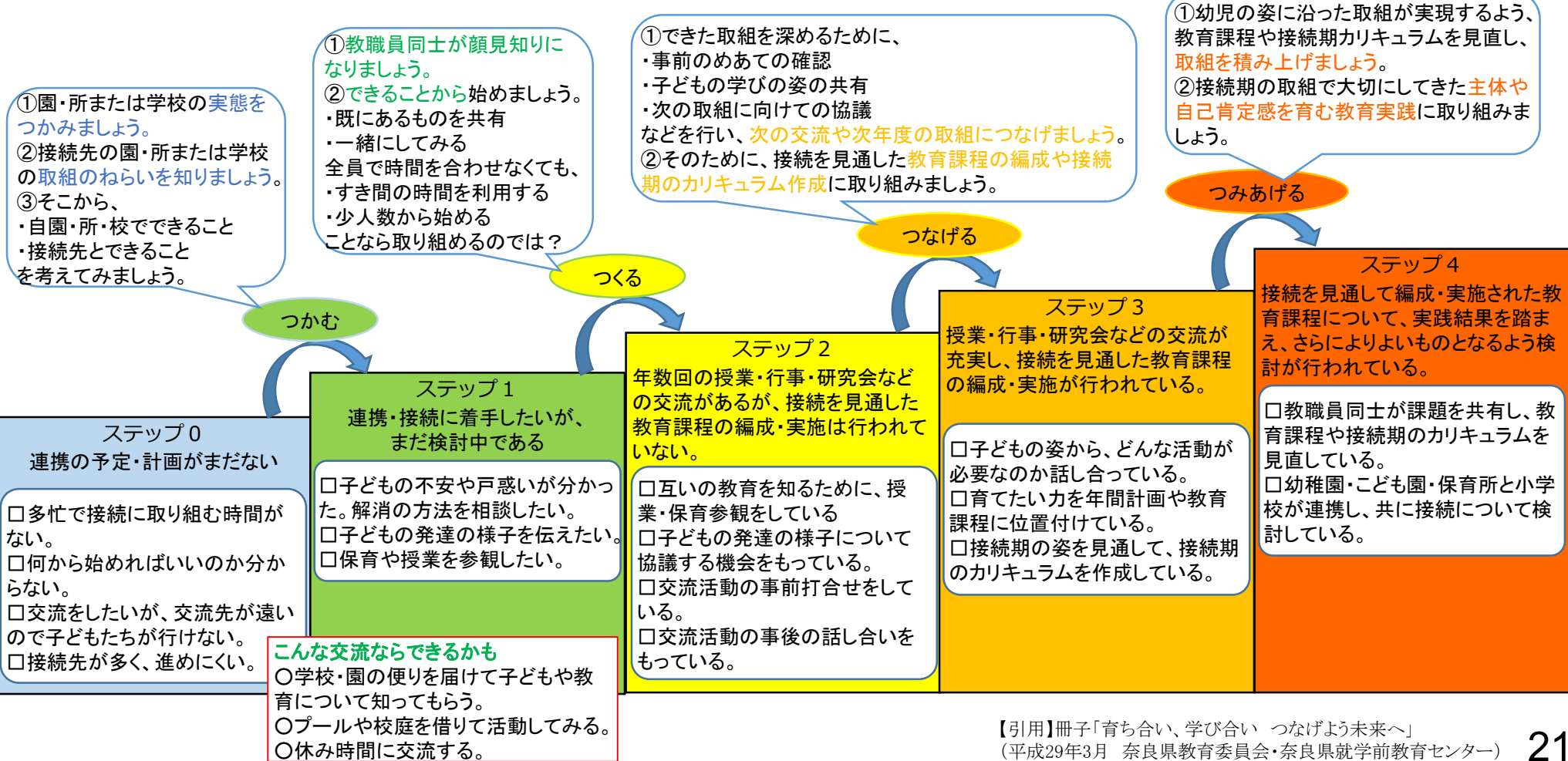
幼小接続の取組

幼児期の教育と小学校教育をつなぎ、子どもの育ちを連続的に共有するため、幼稚園・認定こども園・保育所と小学校とが接続を意識して連携し、ともに取り組むことが必要です。

右図に示すように、本県の幼小接続は、全国と比べ、接続を見通した教育課程をもとにした継続的な実践には進んでおらず、交流にとどまっている状況です。



○取組のステップとステップアップのヒント



○市町村の取組事例 –平成28年度幼児教育の推進体制構築事業 モデル園・小学校の取組から–

平成28年度にモデル地域5市町において取り組まれた実践例を紹介します。

モデル地域は、県の北西部、北東部、そして南部山間の入口になる吉野地域と、本県の地域的な特徴も踏まえたものになっています。

平成29年度は、各モデル市町村において、実践をもとにそれぞれの地域・園・所・学校の実情に応じた接続期のカリキュラム作成に取り組んでいます。

各モデル地域の取組概要

※指導助言：兵庫教育大学 鈴木 正敏 准教授

モデル地域	ポイント	子ども同士の交流に関する条件	教職員の取組	その他の特徴
大和郡山市	接続期のカリキュラムづくりにトライ	・幼稚園・小学校が隣接 ・1年生が多く、交流方法に工夫が必要	・1年生の入学時の「困り感」から、付けたい力について検討を重ねた	・幼稚園と小学校が隣接しているので、すぐに足を運んで情報交換ができる
天理市	子どものつぶやきから広がる 幼小交流 聴く力、伝える力をつないで	・幼稚園・小学校は徒歩移動できる距離 ・幼児と小学生の人数が交流しやすい割合 ・日常的に情報交換ができています	・子どもに付けたい力を共有し、交流及び意見交換しながら教育内容を工夫	・管理職がリードし、取組を進めている ・取組を参考にしながら、カリキュラム作成に着手 ・保育所と小学校との交流も実施
宇陀市	子どもと保護者の戸惑いや不安感が出発点	・幼稚園・小学校は徒歩移動できる距離 ・幼児と小学生の人数が交流しやすい割合	・子どもの戸惑いや不安感を出発点に、ねらいを明確にした交流内容を組み立てる	・公立幼稚園・公立保育所・私立保育所の3園所で、就学を意識した5歳児交流を実施 ・市全体で接続期のカリキュラム作成に向けて取り組んでいる
川西町	教育委員会がパイプ役 組織と人をつなぐ	・幼稚園・小学校は徒歩移動できる距離 ・1年生が多く、交流方法に工夫が必要	・まずは教職員同士が互いの教育を知るところから始める ・教育委員会が接続をコーディネート	・新しいことにも積極的に取り組める雰囲気がある
吉野町	子どもの姿をじっくり見れば、 子どもの学びが見えてくる・ 必要な活動が見えてくる	・こども園と小学校は距離が離れていて徒歩での行き来は困難 ・幼児と小学生の人数が交流しやすい割合	・限られた交流の機会を生かし、交流で見せる子どもの姿を読み取る	・こども園の卒園児が多いため、子ども同士が親しみをもっている ・町全体で協議会をもち、町の子どもをみんなで育てようと取り組んでいる
自園・所の地域ではどうか、書き込んでみましょう				

【引用】冊子「育ち合い、学び合い つなげよう未来へ」(平成29年3月 奈良県教育委員会・奈良県就学前教育センター)

→次頁から、順に具体的な事例を紹介しています。

モデル例を参考にされ、園・所と小学校との距離や子どもの人数などの条件に応じて、自園・所なら何が取り組めるか、一度考えてみるきっかけになればと思います。

「遊び」から「学び」に向けて

大和郡山市立矢田南幼稚園 大和郡山市立矢田南小学校



幼児・児童の実態の交流



園内研究会への校長・小学校教員の参加

互いのことをよく知ろう！



授業参観以外の休み時間や給食の様子の見学

- 学級通信や製作物を見合う
- 幼児・児童の姿を伝え合う機会を多くもつ

など



教職員同士の研修

★アプローチ・スタートカリキュラム作成に向けて★

- ・1年生の困り感についての共通理解
- ・幼稚園での経験と小学校での学習活動についての相互理解

ポイント

- 打合せの時間の確保
- 打合せで保育室・教室を互いに利用

困り感に寄り添って

ポイント

- 入学時の困り感の共有と意識化
- カリキュラムのためのカリキュラムにならないような工夫

1. 1年生の困り感を分析する視点の決定
(他地域のカリキュラムを参考)
「生活する力」「関わる力」「学ぶ力」

2. 共通の項目の明記
幼稚園で付けておきたい力や小学校生活をスムーズにするために付けたい力について共通理解する。(小項目の設置)

「生活する力」…基本的な生活習慣(健康)、食事、排泄、生活態度(ルール)
「関わる力」…あいさつ・返事、伝え合い、人との関係づくり
「学ぶ力」…意欲的に取り組む
身近な環境への関わり(自然、数算、文字等)
身体を動かして活動する
様々な方法で表現する(絵画、製作、歌、言葉等)

3 3つの力を併記したもの(「生活する力」の一部のみ抜粋) ○安定している姿 △困っている姿

	幼稚園	小学校入学時の子どもの姿	小学校
【基本的生活習慣(健康)】	的なる生活に気を付ける。(手洗いうがい等)や活動内容によって衣服の調節をする。カチやティッシュを身に付けたり、必要に応じて脱いだりする。	○手洗いが必要な場面は分かる。 △手洗いうがいが習慣化していない。 △ハンカチやティッシュを身に付けていない。	【基本的生活習慣(健康)】 ・手洗いうがいの効果を知り、進んでしようとする。 ・ハンカチやティッシュを持つ習慣を身に付ける。 ・着早く衣服の着脱、始末ができる。
【食事】	なげでも少しずつ食べようとする。 一食守って一定時間内で食事をすすめる。 かなさる気の中で食事をすすめる楽しさを感じ食への関心が高まったりする。	○給食を楽しみにしている。 △時間内に食べ終わることができない。 △食べ残しが多いお盆がある。 △自分の食べられる量が分からなかったり、食べられないことを先生に伝えられなかったりする。	【給食】 ・決められた時間内に食べる。 ・マナーを守って楽しく食べる。 ・自分の食べられる量が分かり、残さずに食べる。

アップ

既存
対応す
の構成

ローチカリキュラム

の「指導計画」を再構築し、「3つの力」になるようにねらいと内容を定め、援助・環境等について記す。

スタートカリキュラム

- ①生活科を核とした総合的な指導
- ②遊びを取り入れた楽しい活動
- ③時間配分の工夫
- ④学年同学習
- ⑤複数の教員によるサポート

幼小交流の工夫



運動場の遊具に挑戦

幼児の小学校施設・設備の利用

幼児と1年生とシャボン玉遊び(6月)
遊びを通した自由な交流



児童の刺激を受ける幼児



事後の振り返り学習

幼児と1年生とドングリグループ
転がし作り(11月)
別交流



グループで協力した活動

○活動後の日記の抜粋
「つぶれたときはだすけてあげたよ。のしかつたよ。」
「ダンボールカッターをしようずに」「つぎはようちんのおともだちが



みなさんがおでいて、すごくたつかっていて、おどろきました。」学校にきてほしいです。」

○転がし作り(11月)別交流



絵本の読み聞かせ

5歳児と5年生との交流の積み重ね



新年会のビンゴゲーム

来年度1年生・6年生の関係になる2学年での交流の積み重ね。その中で出てきたつぶやきが新年会の企画へと発展した。

【取組の成果と課題】

○園児・児童の実態を話し合ったり、交流の打合せを積み重ねたりする中で、入学して期待を膨らませている姿や困っている姿を共有することができた。その際、幼稚園と小学校を行き来しながら打合せをしたことで、互いの教育を知る機会となり、交流の工夫に繋がった。
○入学時の困り感について共有したことで、アプローチカリキュラムとして取り組むべき内容や、スタートカリキュラムとして考慮していく点について認識することができた。このことを教職員間で共通理解したり、地域内の保育園に広げたりすることが今後の課題である。

【鈴木先生からのコメント】

ここでは、幼児・児童の実態を園と小学校で共有したところが良かったのではないのでしょうか。特に入学時の困り感を話し合ってお互いにどうすればよいかを考えることができたのが、子どもたちのためになってきたかと思えます。それをカリキュラムという形にできたことで、長くつながる連携になるのではないかと考えられます。連携の始まりは子どもの姿の共有から！そこから幼児期と小学校でのねらいがつながることで、子どもたちの育ちを支えることができます。今後はカリキュラムを改善してより良いものにしていくください。

ポイント

- 交流事前事後の打合せ
- 実態に応じた交流の形態の工夫
- 互いのねらいの明確化
- 園児・児童のつぶやきからの交流の工夫

園庭で虫とり

活動後の話し合い

子どもの主体的な活動を中心とした幼小接続 ～聴く力、伝える力をつないで～

天理市立丹波市幼稚園 天理市立丹波市小学校



子どものつばやきから広がる幼小交流

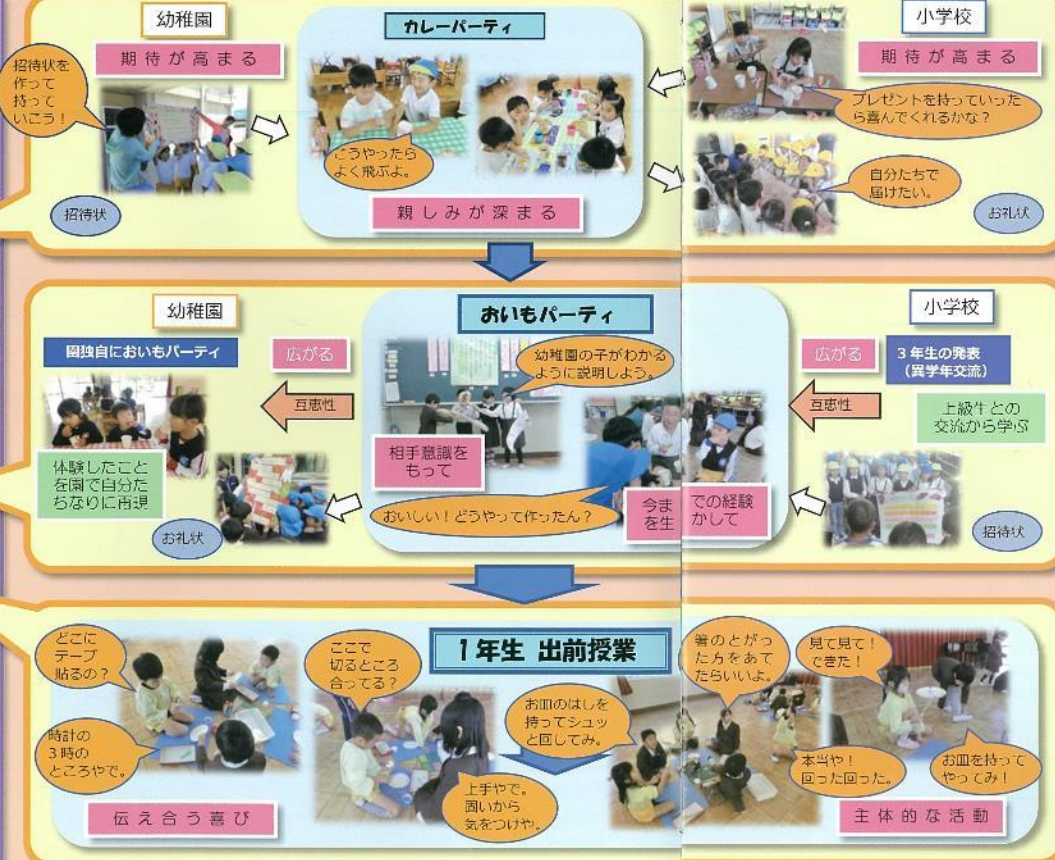
- ◎ 幼小のつながりを意識した交流へ。
- ◎ 子どものつばやきを大切に、「こんなことができた楽しい」を実現させる交流へ。

交流の回数
形式的な交流

主体的な交流へ

幼小連携年間計画

- 4月 出前保育 (幼稚園と保育所の元担任と1年生)
- 4・5月 授業参観 (幼稚園と1年生)
- 6月 保育参観 (園児と小学校の教員)
カレーパーティ (園児と1年生)
- 7月 プール開放 (園児と小学校の教員)
- 8月 教職員合同研修 (幼小の教職員交流)
- 9月 夏休みの作品展見学運動会 (幼・保の園児と1年生)
- 10月 おいもパーティ (園児と1年生)
- 11月 音楽会演奏披露 (園児と4年生)
出前授業 (園児と1年生)
- 1月 たこあげ交流 (幼・保の園児と5年生)
体験入学 (入学予定園児と1年生)
- 2月 教職員合同研修 (講師を招いて講演会)
給食体験 (園児と5年生)
- 3月 出前授業 (幼・保の園児と小学校の教員)



経験から広がる幼小のつながり

主体性を育む話し合い活動

◎ 聴く力・伝える力を育て、話し合い活動を通して、主体性を育てる。

(幼稚園での話し合い活動)

○リレーの話から… 板書を通しての活動を取り入れる。

ホワイトボードの活用



名札があると便利!

速い子と遅い子が順番に走ったらどう?

友達の意見を聞いて考え、自分の意見も安心して伝えることができた。また、みんなでイメージを共有することで、目的意識・相手意識をもって活動できた。

(小学校での話し合い活動)

○学級会では、子どもから出た課題について話し合う。
○司会・運営も自分たちで行う。



ランドセルじゃんけんに賛成です。理由はみんなが笑顔になれるからです。

どんなさつまいも料理知ってる?

子どものつばやきから偶発的な交流が生まれ、親近感が深まった。つばやきをひろうことで、どの子どももワクワクしながら活動し、意欲的・主体的に取り組むことができた。

【鈴木先生のコメント】
子どものつばやきには、一人一人の思いが詰まっています。教員や保育者から与えられた活動ではなく、本当に自分でしたい活動としての交流が生まれています。園でもホワイトボードを活用するなど、思いを形にする努力がなされていて、小学校でのコミュニケーション力の育成につながっています。そのためには先生方同士の話し合いが大切であることが分かります。つばやきから主体性へ、そのコツを積み上げていってください。

子どものつばやきをひろう

聴く力・伝える力を育てる

○遊びや学習場面で、子どもが思いしたことやつばやいたことを指導者が受け止め、目的意識をもって実現できるように支援していく。

○話をする人の方を見て、その人が何を言いたいのか考えながら聴いたり、自分が考えたことや思ったことを相手に分かるように伝えたりできるようにする。

ポイント

一人一人に居場所があり、どの子どもも活躍できる。
達成感を味わい、自信をつけて、自ら学ぶ子どもを育てる。

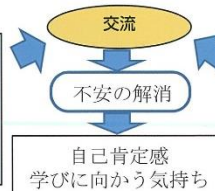
取組の成果と課題

- * 合同研修を重ね、幼稚園教育と小学校教育のカリキュラムの違いを理解することで、子どもの発達、幼児理解を踏まえた授業内容を工夫することができました。
- * 自分たちの意見から楽しい交流ができたことで、1年生も園児も自信をもつことができました。園児にとっては、小学校への期待感が高まるとともに、就学への不安が軽減しました。
- * 幼小接続期にあたる年長児・1年生担任をどの教職員でも担当できるように、更に研修を重ねます。

「ワクワク ドキドキ 小学校」 ～知りたい・伝えたい・つながりたい～ 宇陀市立榛原東幼稚園 宇陀市立榛原東小学校

幼稚園生活の中で、自分のしたいことを見付け、存分に遊ぶ幼児の姿を小学校生活の中でも見られるように願っている。しかし、幼児は漠然とした不安を抱えていることが分かった。本市では、幼児の不安感を糸口に交流を組み立て、幼小接続に取り組んだ。

幼児の小学校に対する漠然とした不安
・給食の時間が短いからどうしよう
・学校まで歩いて行けるか心配
・男の人がたくさんいるからドキドキする
・何か分からないけど不安



保護者の不安
・登下校について
・友達関係について
・小学校生活について
・給食について



小学校教員の園見学

「幼稚園って、どんなところ？」
幼稚園の教育を知ることが、子どもたちへの支援のヒントとなった。



小学校探検

「6年生ってすごい！」
知らないことがいっぱい。
もっともっと知りたい！
私もやってみたい。



小学校の運動会

小学校の運動会では5年生と手をつないでスタートラインへ。
来年も、小学校で出会える。



合同活動（秋みつけ）

「一緒に降りよう。」
人の役に立てたという喜びを味わった。

そっと手をつないでくれる1年生の優しさに触れ、不安が安心感へと変わる。

取組の成果と課題

〇交流を通して自己肯定感を高める

幼児の姿から、小学校入学に向けての不安が高いことに着目し、幼小の交流のねらいを小学校について知ること、相手意識をもち、主体的に取り組むこととし、活動を設定した。継続して交流するためには、話し合いの機会を多くもつことが大切であり、事後の話し合いの中で、次の交流のアイデアが生まれてくる。交流会のねらいが明確になり、互恵的・継続的な交流が実現する。

〇保護者の不安感を軽減する

子ども同様、保護者の不安も大きいことが分かった。保護者の不安を取り除くために、先輩保護者との交流会の開催や『幼小連携だより』の発行をした。子どもが小学校生活に期待をもっている姿から、小学校での生活を見通しながら成長を見守ることができるようになり、保護者の期待につながる事ができた。

〇地域の幼・保で共に取り組む

市内公・私立保育園・幼稚園5歳児交流会を行っている。5歳児が互いを知り合うことで入学時に早く親しむことができる。また、教職員も、入学までに育てたい力を共有することができた。

〇学び方を知り、教育をつなぐ

幼稚園や保育所に小学校の教員が訪れる中で、教育の中で大切にしているものが見えてきた。幼稚園教育を知ることが小学校入学時の姿やその時期の教育の方法を考えることにつながり、互いの教育をつなぐ糸口を見付けることができた。

不安から期待へ

小学校の秘密がいっぱい。
小学校への期待が膨らみ、幼稚園との違いに気付く。



小学校紹介カード

園児が1年生からもらった校内の写真を見ながら、自分たちの探検したい教室について、話し合う機会を大切にする。そのことで、幼児自らが主体的に交流会に参加できるようになった。

「小学校って、どんなところ？」
幼児の期待や不安を知ることが大切！小学校に行くことによって、小学校がどんなところか分かってきた。



小学校訪問



幼稚園訪問
(小学校の紹介)

相手意識をもった交流にすることで伝えたい気持ちが増した。



保護者交流会

交流内容の発信や小学校についての情報交流が、保護者の不安軽減につながった。



幼小連携だより

【鈴木先生のコメント】

子どもたちの不安を受け止めそれを期待につなげている実践です。実は、子どもたちだけでなく、保護者も不安を抱えているのです。そこを丁寧にほぐしていくことで、保護者と子ども・先生が一体となって連携を進められたのが、この実践の優れたところです。夏休みに小学校の先生が園訪問をしたり、保幼でお互いに交流したりして、先生方が「つながりたい！」という思いを行動に移した。その結果、皆が安心できる環境が整ってきたのではないのでしょうか。保護者への関わりについて、これからも示唆をお願いします。

つなげよう 子どもの学びと育ち

川西町立川西幼稚園 川西町立川西小学校

行ってみよう!

校長先生がおオケマイマイを持って幼稚園にやって来た

お礼のお手紙を書いた

「粘土や折り紙で作って遊ぼう」

「オケマイマイの飴が落ちて・・・」

見ってみよう!

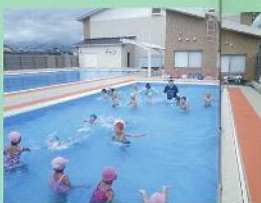


幼稚園に小学校の教員が訪問



小学校に幼稚園の教員が訪問

やってみよう!



小学校のプールで楽しいひと時



1年生と5歳児の交流会



小学校の運動場で



1日体験入学



組織と人をつなぐ

これまで例年通りに行ってきた1日体験入学や保幼小交流会等の取組を、子どもの学びや育ちをつなぐ視点から吟味し、深化させるためには、核となる組織が必要である。

定期的に各校種の管理職、担当教員、教育委員会が集まり話し合う場の設定をした。

- ・昨年度の反省
- ・教職員の交流や研修計画
- ・園児や児童の交流の目的や実施計画



担当教員だけでなく、教職員全体に広げていくための意識変革の筋道についても検討した。

教育委員会がコーディネート

川西町教育交流会(夏期休業中) 各校種間の連携・協力体制を築いていくために、まずは、幼稚園、小学校職員のつながりが大切となる。校種縦割りのグループでカレーとデザートを作り会食をした。その後、体育館でソフトバレーボール大会を実施し、教職員間に親しみと協働の意識が芽生えた。

交流会で親交を深める

川西幼稚園・小学校合同研修会(夏期休業中) 幼児教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続について、その意義や理論、各地の実践に学ぶため教育研究所の指導主事を招聘して研修会を実施した。この研修会を通して、幼児期の学びが小学校教育へ円滑に移行できることの重要性を再認識した。

研修会で共通認識

「やってみよう」が土台となり、「遊び」から「学び」へ



幼稚園の枠を離れた違う社会、小学校での新たな学びの新鮮さ



組織と人がつながるから 学びと育ちがつながる

【鈴木先生からのコメント】

ここでは、教育委員会が中心となり、積極的に教職員交流や研修、連携の実施を進めているところが素晴らしい点です。そこに校長先生自らがリーダーシップを発揮し、子どもたちと心の通った交流をされているのが印象的です。活動自体は子どもの主体性を大切に、対話的で深い学びができるように工夫されています。これからは、リーダーシップを分散して組織づくりをすることで、先生方一人一人が参画され、これまで以上に子どもたちが主体となるような連携が行われるのではないかと期待しています。

園小接続から教職員が変わる

吉野町立 よしのこども園・わかばこども園
吉野町立 吉野小学校・吉野北小学校

交流をもつ
頻繁に行き来
たちが学校生
課程・指導計
成等の必要性

小学校とこども園は、距離があり、
することは難しい。就学する子ども
活に適應できるようそれぞれの教育
画の理解、接続カリキュラムの編
を感じている。



交流は形式的なものにとどまり、成果を保育や教育に十分活用できていなかった。立
地条件から交流回数を増やすこともできない。限られた交流の機会をより実りあるもの
にするために、交流の目的を明確にし、教職員間の事前・事後の打合せの時間を十分
に取ることにした。
吉野町の子どもたちの笑顔あふれる園小接続を目指し、町内2園2小の全校園で、教
職員間の交流を行い、取り組むことにした。

授業公開 (5月)

入学して1か月...



はりきって学校生活を送る子どもたち



読み聞かせに喜ぶ1年生

園長先生による絵本の
読み聞かせ

ひさしぶりだ！うれしいな。

☆子どもの様子

園長先生に手遊び歌と読み聞かせをしてもらった。4月
から始まった小学校での慌ただしい生活の中で見せる頑
張っている姿とは違う穏やかな表情であった。

小学生は、積極的に学習に取り組んでいる
が、実態は少し無理をしている。その頑
張りにつきんと寄り添っているか、振り返り
の機会になった。

交流会 (6、10月)



よろしくね！
お礼の
プレゼント

回を重ねるごとに
お互いの距離が近づく



招待状
探検マップ

・小学校の秘密
・秋を楽しもう会
・園小それぞれの発表
・楽しく遊ぼう

☆子どもの様子

相手意識をもち、分かりやすく伝えるにはどうしたらいい
のかという「伝える力」を伸ばすことができた。

日常の関わり方について、幼児期に身に付けて
いる力を引き出し、自尊感情を高める関わりに変え
ていく必要性を考える機会となった。

訪問授業 (12月)

授業体験 (45分)



小学校の1
日はね...

きりつ きをつけ
1年生みたい♪



1年生のまねっこ 日直



字をなぞって、1年生にお手紙を書こう！

☆子どもの様子

園児は小学校入学に対して強い期待をもっている。あこ
がれの姿に近づくことができ、緊張感をもちながら、集中
して教員の話の間こうという意欲的な姿勢が見られた。

小学校入学までに育みたい力の付け方について
再考する機会となった。また、スクール形式の授業
形態で子どもの特性を把握することの重要性を感じ
、連携の充実を図る手立てを考えることにした。

1日体験入学 (2月)



1年生と
いっしょに
勉強・運動



ぎゅうにゅうはコップで
のまないんだ！
ぎゅうにゅうびん、
大きいな。

☆子どもの様子

小学校への入学は、子どもだけでなく、保護者にとつ
ても期待・不安が大きい。体験入学をすることで、どちら
の不安も減ったように思われる。

子どもの不安を軽減するためには、まずは保護
者の不安を軽減することが大切であることに気付き、
保護者に対して今まで以上に積極的な声かけを行う
ことにした。

【取組の成果と課題】

○まずは教職員の交流！その後、交流活動ができるかを考える打合せの機会を増やす！

→ 教職員が気軽に連絡を取り合い相談できるようになった。
教職員に多くの気付きがあり、それを保育や教育に生かすことができた。

○町内の2園2小の教職員が集まり、交流のもち方について考えた。

→ 今年度は学習していることを写真で知らせたり、手紙のやり取りをしたり間接的な交流も実施。
園児は小学校について興味・関心がより高まった。
児童は相手意識をもった優しい対応ができるようになった。

○園全体、学校全体の教職員で幼小接続の情報の共有。

○園と小学校
場合は、手紙
的に交流する
ことで、子ども
より充実した

○園小接続
園と小学校
ると、保護

が離れていて、直接的な交流ができてい
く写真などで日頃のお互いの活動を間接
と良い。1年を通して、継続的に交流する
たちもつながりを意識し、数少ない交流が
ものになる。

の取組を保護者にも通信などで知らせる。
の教職員同士が繋がって
者に安心感が生まれる。



【鈴木先生からのコメント】

学校・園がお互いに離れている環境にもかかわらず、町
の子どもたちと一緒に育てていきたいという思いを共有し
ているところが良かったのではないのでしょうか。子ども同
士が同じ場や時間を共有する機会が少なくとも、手紙や写
真を送り合うことで、子どもたちの学ぶ意欲が繋がって
いるところがいいですね。園長先生が学校に来てくださ
ったことで、どれだけ子どもたちが勇気付けられたでしょ
うか。小学校の先生の訪問授業も、子どもたちの期待を膨ら
ませますね。これからも町全体での取組を続けていって
ください。

○効果的な研修事例

就学前教育においては、子どもに対する実践のスキルだけではなく、保育者（教員）の側の資質向上も合わせて両輪で取り組まなければならないと考えます。ここでは、保育者（教員）の指導力や子どもの観察力などのスキルの向上に向けた研修等の取組事例から、特徴的・効果的と思われるものを数例紹介します。

1. 子どもの理解

保育者が子どもに対して適切に援助・指導するために、子どもの性格や行動を的確に把握する観察力を向上させる研修です。

【F1】ワークショップ 子ども一人ひとりに焦点を当てて話し合う「マインドマップ」作り

内容

○進め方

- ・「余り目立たない子」「落ち着きのない子」「リーダーシップのある子」等テーマを決める。
- ・各担任から園児を1人ずつ抽出し、模造紙の真ん中に名前を書く。
- ・担任以外の教員が、その園児について気付いていることを付箋に書いて貼っていく。
- ・貼られた付箋を、“5領域”の領域ごとにグループ分けして整理。複数の領域にまたがる事柄もある。
- ・完成したものが「マインドマップ」で、職員室に貼って教員間で共有。
- ・3年間で全園児のマインドマップを作成することが目標。

※マインドマップとは

- ・英国の著述家トニー・ブザンが提唱したノート術。
- ・紙の中心に主題を書き、そこから放射状に線と字を書いていく。
- ・普通のノート術よりも絵や色を多用するため、直感的に分かりやすく、アイデアを出しやすくなったり、記憶力が上がったたりするメリットがある。



マインドマップの作成例



研修の様子

【F2】子どもの理解

ワークショップ 発達に難しさを感じる子どもを理解するための、個別指導計画作り

内容

○「特別支援教育士」と個人契約を締結して実施。

○進め方

- ・発達障害のある園児を対象に、個別の「CLM」という指導計画書に担当教員が観察した記録を書き込んでいく。
- ・それを数ヶ月に1度、特別支援教育士がチェックし、アドバイスをもらうことで、対象の園児に対する指導・支援に役立てる。

※特別支援教育士とは

- ・LD・ADHD等のアセスメントおよび個別の指導計画の作成と立案ができる人材。
- ・学校内での行動・学習に起因して起こるいじめや不登校など、心理的な問題にも学習面の問題にも対応できる力を備え、児童生徒や教師をトータルに支援することができる心理と教育の専門資格。
- ・有資格者は、全国に約4,800人。
(特別支援教育士資格認定協会ホームページより引用)

2. 専門的な指導力向上

園の取組内容によっては、体操や絵画、音楽など専門的なスキルを要する設定保育もあります。

【G1】実技指導

茶道・マーチング・絵画・体操など

内容

○各種団体(マーチング・体操など)主催の講習会に園負担で保育者(教員)を派遣。

- ・時期:夏休みなどの長期休業期間を活用

○講師(茶道・絵画)を園に招聘して、保育者(教員)対象の研修会を開催。

- ・招聘した専門の講師から直接園児を指導してもらうこともあるが、教員の指導力を向上させて園児を指導する方向を重視。

○実践成果の見える化

教育・保育の質の向上のために、日々の教育・保育実践について振り返り評価し、教員間で情報共有しながら、取組の改善につなげていくことも必要なことであると考えます。園で実施されている、教育・保育の質の向上に向けた実践について、子どもの育ちの様子を家庭と共有している独自の事例を紹介します。

【事例】子どもの理解の補助 「輝くみなみっ子をめざすCHECKシート」

この「輝くみなみっ子をめざすCHECKシート」は、子どもの理解を助けるものとして、田原本町立南幼稚園で実践されているものです。

「あいさつ」「かたづけ」「話すこと」「聞くこと」の4つの行動の育ちを重視するという園の考えのもと、子どもにできるようになってほしい事柄を10項目ずつ掲げ、

それぞれの項目は何歳時点で到達してほしいかを目安として提示しています。

1～10までのどの項目まで出来るようになったかを、個人ごとに把握するものです。

「評価」ではありません。あくまでも子どもの育ちを具体的な行動の到達で見ようとする試みです。

子どもの保護者と共有するとともに、隣接の町立小学校への接続にも活用されています。



輝くみなみっ子をめざす CHECK シート

氏名

※ご協力ありがとうございます。なお、このチェックシートは各項目の1→10に向けて発達年齢が高くなっており、目安としての年齢数は右の枠に書いています。参考をお願いします。

幼児の実態		目安	家庭で	園で
あいさつ	1 挨拶をされると小さい声で挨拶する。	③④⑤		
	2 自分から挨拶できるが、声が小さい。	③④⑤		
	3 自分から大きな声で挨拶ができる。	③④⑤		
	4 相手の顔を見て、自分から挨拶できる。	③④⑤		
	5 「～ちゃんおはよう」と、相手の名前を入れて挨拶ができる。	④⑤		
	6 自分からお客様や地域の人にも挨拶ができる。	④⑤		
	7 大人に対して、立ち止まって、深くお辞儀をしながら挨拶ができる	④⑤		
	8 「ありがとう」と、自分から先生や友達に言える。	③④⑤		
	9 「ありがとうございます」と、心を込めて大人に言える。	⑤		
	10 「おはよう」「おやすみ」「さようなら」「ありがとう」など、自分からさまざまな挨拶ができる。	⑤		

幼児の実態		目安	家庭で	園で
かたづけ	1 大人に注意されると、片づけることができる。	③④⑤		
	2 片付けの時間になると、片づけることができる。	③④⑤		
	3 友達と一緒に片づけることができる	③④⑤		
	4 使った物を元の場所へ戻すことができる。	③④⑤		
	5 自分の服いだものをたたむことができる。	④⑤		
	6 いろいろなものを分類して片づけることができる。	④⑤		
	7 きちんと靴やスリッパを揃える・並べることができる。	④⑤		
	8 自分の物は決まった場所（園ではロッカー）に整頓して片づけることができる。	④⑤		
	9 見渡してまだできていないところを見つけて片づけている。	⑤		
	10 全て片づいた時大人に、「できました」と報告ができる。	⑤		

幼児の実態		目安	家庭で	園で
話すこと	1 単語だったら言える。	③④⑤		
	2 先生にだったら、言える。	③④⑤		
	3 友達に「貸して」「入れて」「いやだ」「いいよ」が言える。	③④⑤		
	4 集団の場で、大人の助けがあれば話すことができる。	③④⑤		
	5 集団の場で、聞いている人（先生・友達）を見て、話すことができる	④⑤		
	6 集団の場で、みんなに聞こえる声で話すことができる。	④⑤		
	7 集団の場で、姿勢を正して話すことができる。	④⑤		
	8 集団の場で、最後まできちんと話すことができる。「～です」	⑤		
	9 友達に困った状況を伝え、願いや要求を伝えることができる。	⑤		
	10 友達の同意や意見を求め、対話を進めることができる。	⑤		

幼児の実態		目安	家庭で	園で
聞くこと	1 1対1なら聞くことができる。	③④⑤		
	2 2・3人の集団でなら聞くことができる。	③④⑤		
	3 集団の場で、保護者（担任）の話を聞くことができる。	③④⑤		
	4 集団の場で、保護者（担任）以外の話を聞くことができる。	③④⑤		
	5 集団の場で、座って、または、立ち止まって聞いている。	④⑤		
	6 集団の場で、話をしている人の顔を見て聞いている。	④⑤		
	7 黙って話を最後まで聞いている。	⑤		
	8 頷いたり、傾げたりして聞いている。	⑤		
	9 聞いた後、反応がある。指示通り動いている。	⑤		
	10 自分と反する意見にも耳を傾けたり、さまざまな話にも興味をもって聞いたりする。	⑤		

【参考】幼稚園教育要領（概要・抜粋）

○幼稚園教育要領における整理

就学前教育（幼児教育）は、幼稚園教育要領において、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」と謳われています。

幼児の発達の側面から、育ちの方向性を「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」のいわゆる”5領域”に整理し、幼稚園教育において育みたい資質・能力を、幼児の生活する姿から捉えた「ねらい」と、その達成のための指導に当たっての留意事項を示した「内容」がまとめられています。

これらを踏まえ、特に5歳後半において、「ねらい」を達成するために幼児が身に付けるべきものを、10項目の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に整理されています。

○幼稚園教育の基本

- ・幼児期の教育・生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの
- ・幼稚園教育……幼児期の特性を踏まえ、環境を通じて行うもの
- ・重視すべきこと
 - ① 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開
 - ② 遊びを通じての指導を中心として「ねらい」が総合的に達成
 - ③ 幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導

[幼稚園に求められること]

学校教育の始まりとして、一人一人の幼児が将来、

- ① 自分の良さや可能性を認識
- ② あらゆる他者を価値のある存在として尊重
- ③ 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越える
- ④ 豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる

ことができるようにするための基礎を培うこと

○幼児教育において育みたい資質・能力

- (1) 知識・技能の基礎 (2) 思考力、判断力、表現力等の基礎 (3) 学びに向かう力、人間性等

幼児の発達の側面から

○5領域 = 次第に達成へと向かうもの・方向性

- A 健康 [健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う]
- B 人間関係 [他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う]
- C 環境 [周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う]
- D 言葉 [経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くことと意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う]
- E 表現 [感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通じて、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする]

活動全体を通じて資質・能力が育まれている
幼稚園修了時の具体的な姿

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道徳性・規範意識の芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え
キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現

○教育及び保育の基本

- ・乳幼児期の教育及び保育 生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの
- ・認定こども園における教育及び保育
乳幼児期全体を通して、特性・保護者・地域の実態を踏まえ、環境を通じて行うもの
家庭・地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものになるよう努める
- ・重視すべきこと
 - ①周囲との信頼関係に支えられ、園児一人一人が安心感と信頼感をもっているいろいろな体験を十分に積み重ねられる
 - ②園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開
 - ③遊びを通じての指導を中心として「ねらい」が総合的に達成
 - ④園児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導

園児の主体的な活動が確保されるよう、
保育教諭等がしなければならないこと

- ・園児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成
- ・教材を工夫し、物的・空間的環境を構成
- ・園児一人一人の活動の場面に応じて様々な役割を果たし、活動を豊かにする

○教育及び保育の目標

- ①健康・安全・幸福な生活に必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図る
- ②集団生活を通じ、喜んで参加する態度を養い、家族や身近な人への信頼感を深め、自主・自律・協同の精神・規範意識の芽生えを養う
- ③身近な社会生活・生命・自然に対する興味を養い、それらへの正しい理解・態度・思考力の芽生えを養う
- ④日常の会話・絵本・童話等に親しむことを通じ、言葉の使い方を正しく導き、相手の話を理解しようとする態度を養う
- ⑤音楽、身体による表現・造形等に親しむことを通じ、豊かな感性・表現力の芽生えを養う
- ⑥快適な生活環境の実現・子ども・保育教諭等との信頼関係の構築を通じ、心身の健康の確保・増進を図る

○3歳以上児の発達の特徴

- ・運動機能の発達により、基本的な動作が一通り出来る・基本的な生活習慣もほぼ自立
- ・理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心が高まる
- ・仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動が出現

個の成長と集団としての活動の充実

○いわゆる「5領域」

- A 健康 [健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う]
- B 人間関係 [他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う]
- C 環境 [周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う]
- D 言葉 [経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う]
- E 表現 [感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通じて、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする]

活動全体によって育む

○育みたい資質・能力

- (1) 知識・技能の基礎 (2) 思考力、判断力、表現力等の基礎 (3) 学びに向かう力、人間性等

指導を行う際に考慮
活動全体を通じて資質・能力が
育まれている園児の認定こども
園修了時の具体的な姿

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- | | | | | | |
|----------------|------------------------|-------------|----------------|-------------|-----------|
| ア 健康な心と体 | イ 自立心 | ウ 協同性 | エ 道徳性・規範意識の芽生え | オ 社会生活との関わり | カ 思考力の芽生え |
| キ 自然との関わり・生命尊重 | ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | ケ 言葉による伝え合い | コ 豊かな感性と表現 | | |

◇その他

□配慮事項

- 0歳～就学前までの一貫した教育・保育を、園児の発達・学びの連続性を考慮して展開
→3歳以上 家庭や他の保育施設等との円滑な連携・引継、環境の工夫
- 園児の生活の連続性・リズムの多様性に配慮
→入園・年度当初 園児ごとの生活リズムに配慮して1日の自然な生活の流れをつくり出していく
- 留意事項(3歳以上)
 - ①集団活動の中で遊びを中心とする主体的な活動から発達・学びを促す、園児同士で豊かな体験
 - ②在園時間が異なる多様な園児の存在→生活の連続性の確保・生活リズムの調整
 - ③異年齢児による活動を組み合わせて設定
 - ④長期休業中に生活の場が園児によって異なる→多様な経験を長期休業後の園生活に活かす

□健康・安全の確保

- 子どもの健康支援
- 食育推進
- 環境・衛生管理・安全管理
- 災害への備え

□子育て支援

- 保護者との相互理解と自己決定の尊重
- 認定こども園の特性を活かした支援
- 保護者の状況に配慮した個別支援
- 不適切な養育等が疑われる家庭への支援
- 地域における教育・保育の中心的な役割

【参考】 保育所保育指針（概要・抜粋）

○保育所保育に関する基本原則

[保育所の役割]

- ①子どもの健全な心身の発達を目的とする児童福祉施設
- ②保育所の環境を通じて、養護及び教育を一体的に行うのが特性
- ③子どもの保護者支援、地域の子育て家庭支援等
- ④保育士は保育・指導を行い、専門性の向上に努める

[保育の目標]

- ①生命の保持・情緒の安定を図る
- ②基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う
- ③人への愛情と信頼感・人権を大切にすることを育て、自主・自立・協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う
- ④生命・自然・社会事象への興味・関心を育て、豊かな心情・思考力の芽生えを培う
- ⑤言葉への興味や関心を育て、言葉の豊かさを養う
- ⑥様々な体験を通じて、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う

[保育の方法]

- ①一人一人の子どもの状況や家庭・地域社会での生活実態を把握
- ②子どもの主体としての思いや願いを受け止める
- ③健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境、自己を十分に発揮できる環境の整備
- ④個人差に配慮し、一人一人の発達過程に応じて保育する
- ⑤子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にし、生活や遊びを通じて総合的に保育
- ⑥親子関係や家庭生活等に配慮し、適切に援助

[保育の環境]

- ①子どもが自発的に活動し、様々な経験を積めるよう配慮
- ②保育所の設備・環境を整え、保健的環境・安全確保に努める
- ③保育室は温かな親しみとくつろぎの場・生き生きと活動できる場となるよう配慮
- ④子どもが自ら周囲の子どもや大人と関わっていける環境の整備

[保育の社会的責任]

- ①子どもの人権に十分配慮し、子ども一人一人の人格を尊重
- ②地域社会との交流・連携、保護者・地域社会に保育内容を適切に説明
- ③個人情報適切な取扱い、保護者の苦情等の解決に努める

☆保育は、「養護」と「教育」を一体的に行うことが特性

養護・・・子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助

教育・・・子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助

○3歳以上の幼児の発達の特徴

- ・運動機能の発達により、基本的な動作が一通り出来る・基本的な生活習慣もほぼ自立
- ・理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心が高まる
- ・仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動が出現

個の成長と集団としての活動の充実

○いわゆる「5領域」＝「養護」(生命の保持・情緒の安定)と一体的に展開されることに留意

- A 健康 [健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う]
- B 人間関係 [他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う]
- C 環境 [周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う]
- D 言葉 [経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う]
- E 表現 [感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通じて、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする]

□幼児教育を行う施設として共有すべき事項

○育みたい資質・能力

- (1) 知識・技能の基礎 (2) 思考力、判断力、表現力等の基礎 (3) 学びに向かう力、人間性等

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道徳性・規範意識の芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え
キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現

指導を行う際に適宜考慮
活動全体を通じて資質・能力が
育まれている小学校就学時の
具体的な姿

◇その他

□保育の実施に関する留意事項

- 保育全般に関わる配慮事項
 - ・気持ちを受け止め援助
 - ・生理的・身体的育ちと自主性・社会性・豊かな感性の育ち
 - ・子どもの試行錯誤を見守り適切に援助
 - ・入所時から円滑になじめるよう対応
 - ・国籍・文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てる
 - ・性差・個人差に留意し、性別等固定的意識を植え付けない
- 小学校との連携、家庭・地域社会との連携

□健康・安全の確保

- 子どもの健康支援
- 食育推進
- 環境・衛生管理・安全管理
- 災害への備え

□子育て支援

- 保育所の特性を活かした支援
- 保護者との相互理解
- 保護者の状況に配慮した個別支援
- 不適切な養育等が疑われる家庭への支援
- 地域に開かれた支援

□職員の資質向上

- 職員の資質向上に関する基本的事項
- ・保育所職員に求められる専門性 必要な知識・技能の習得・維持向上
- ・保育の質の向上 課題に対し組織的に対応
- 施設長の責務 専門性の向上と職員の研修機会の確保等
- 職員の研修